

第2回守口市義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日 時 令和2年7月8日（水）午後2時00分

場 所 守口市役所 教育委員会会議室

出席者	委員長	森田 大輔	守口市教育委員会事務局	教育監
	副委員長	大野 友己	守口市立庭窪中学校	校長
	委員	棹本 達也	守口市教育委員会事務局	教育部 学校教育課長
	委員	中村 文俊	守口市教育センター	長
	委員	光宮 猛	守口市立大久保中学校	教頭
	委員	横山 淳		保護者
	委員	清水 智織		保護者

○事務局 失礼いたします。改めまして、皆様こんにちは。

それではただいまより、令和2年度第2回守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を始めたいと思います。

早速ここからは、委員長に進行をお譲りいたします。委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、改めまして、こんにちは。

本日は大変お忙しい中、御参集いただきまして、誠にありがとうございます。私たち選定委員会の任務は前回確認させていただきましたように、来年度、中学校及び義務教育学校後期課程の生徒が使用する教科書の採択を、適正かつ公正に行えるよう、守口市教育委員会の諮問に基づき綿密な調査・研究及び検討を行い答申を行うことにあります。

つきましては、本日、机上にございます調査・研究資料を基に審議を行い、活発な御意見を頂戴できればと考えております。資料の中身は、任命されました調査員が全ての見本本について府の選定資料等を参考にしながら調査・研究し、まとめたものでございます。

私たちは、この調査・研究資料を基に、教育委員会の諮問事項に沿いながら検討し、答申を出さなければなりませんので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の会議の進め方についてでございますが、まず最初に、事務局より現在までの教科書採択に係る経緯等を報告いただき、皆様に御確認いただくとともに、御意見等がございましたら出していきたいと思っております。その後審議に入っていきたいと考えます。審議の方法につきましては後ほど御提案させていただきたいと思っております。

それでは、まず事務局よりこれまでの経緯等の説明をお願いします。

○事務局 失礼いたします。学校教育課でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、これまでの経緯並びにお配りしております各資料に関する説明及び留意点等について御説明申し上げます。

先に、本日配付しております資料6点の確認をいたします。ファイルに入っておりますが、まず、1点目は、本会議の次第、裏面に本日の出席者等について記載したものです。2点目は「令和3年度使用中学校教科用図書見本本の発行者一覧」。3点目は、「令和3年度使用教科用図書中学校調査報告書（写し）」。4点目は、「令和3年度使用中学校教科用図書の調査・研究について（諮問）（写し）」。こちらは赤い色の付箋を上につけているものでございます。5点目は、「令和3年度使用教科用図書中学

校意見書」。それから、ファイルと別で、6点目、大阪府作成の「令和3年度使用教科用図書選定資料中学校用」の以上6点でございます。資料の不足等はございませんでしょうか。

それでは引き続き、これまでの経緯について御説明申し上げます。

まず確認でございますが、令和2年5月11日（月）に第1回選定委員会を教育委員会会議室で開催し、委員の任命・委嘱及び委員長・副委員長の選定を行いました。また、教育委員会から選定委員会への諮問が行われております。

ここで、いま一度諮問内容を確認させていただきます。

資料の4点目、諮問事項の写しを御覧ください。

学習指導要領に示す目標、内容、下記の視点及び、本市生徒の実態や地域性等も十分に考慮し、令和3年度守口市立中学校及び義務教育学校後期課程において使用するのにふさわしい教科用図書に関する意見について、守口の教科書採択における基本的な4つの視点を踏まえ、求めるものでございました。

また、その後の選定委員会では、先ほど委員長からもありました選定委員会の任務の確認、調査員の種目ごとの人数の決定、調査項目の検討等について御審議をいただきました。

それらを受けまして、今年度につきましては、既に、前回の選定委員会でもお伝えいたしましたとおり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、これまで実施してございました調査員全体会に代えて、事務局にて説明資料等を作成し、調査員へ配付、内容の共有を十分図った上で、種目ごとに調査・研究を進めさせていただきました。

その中で、守口市の基本的な4つの視点で調査・研究をしていただくことを伝えるとともに、調査に当たっての留意事項、全ての教科書についての調査・研究に基づく資料を作成すること。綿密かつ公正な調査・研究による適切な資料を作成すること。誤字、脱字、不適切な表現に対する配慮を行うことなど、約1カ月間の中で、種目ごとに複数回の会合を持ち、慎重に検討を重ねていただいた上で、最終の調査・研究のまとめが行われ、調査報告書が提出されております。

また、中学校等では6月4日～7月2日の間、教科用図書の移動展示をいたしました。その際、学校にも意見の提出ができる旨通知し、報告を受けております。同様に、守口市教育研究会にも意見の提出ができる旨通知しております。

加えまして、守口市教科書センターにおきましても、6月4日から明日（7月9日）までの間、教科書の展示会を開催し、市民等の方々にも教科書を御覧いただいているところです。

経緯といたしましては、おおむね以上でございます。

次に、本日お配りいたしました資料について、簡単に御説明申し上げます。

まず、資料の3点目、「令和3年度使用教科用図書中学校調査報告書（写し）」を御覧ください。

こちら委員長御挨拶にありましたが、種目ごとに調査員が調査・研究し、まとめたものでございます。調査報告書の1～7は、各種目に共通の観点です。それぞれの項目で、全ての教科書を調査・研究し、特徴を調査事項として記入しております。

次に、一番最後、「令和3年度使用教科用図書中学校意見書」を御覧ください。

こちらは、学校への巡回展示において教職員の意見をまとめたものでございます。

また、本日は見本本を各委員の皆様分用意しておりますので、諮問事項にございます守口の教科書採択における基本的な4つの視点を踏まえ、報告書に照らして御覧の上、御検討のほどよろしくお願いいたします。

事務局からの経緯の報告及び資料の説明につきましては、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、事務局の説明で大体様子を確認していただけたかと思えます。

そこで、答申を作成するに当たり、どのような検討をこの選定委員会で行っていくかということですが、どなたが御提案のある方ございますでしょうか。

○副委員長 委員長一任で結構だと思います。

○委員長 それでは、委員長一任のお声がございましたので、一つお諮りさせていただきます。

現在、机上にございます、特にこの調査員の調査報告書、こちらは各発行者の教科書を全て目を通された上で、特によい点について記載され、まとめられております。今現在は各者が並列的に並んでいる状態でございます。こちらをそのまま教育委員会に答申するのではなく、この選定委員会で3つに分類をして答申を作成し、教育委員会に提出をしてはどうかと考えております。こちらの手法は、これまでの教科書選定でも行ってきた方法でございますが、具体的に言いますと、この後、この調査報告書等を参考にいただきながら、改めて教科書に目を通していただきまして、確かにこういうところが優れているなど、子供たちにとってより扱いやすい教科書だというような御意見をいただきまして、その御意見を基に、1つ目には、「最もふさわしい」。2つ目には、「よりふさわしい」。そして最後に、「ふさわしい」の3つの分類に分け、選定委員会の意見として答申させていただくという形を取ってはどうかと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは、本日の御意見を基に、事務局で中学校教科用図書選定一覧表等を作成してまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局より配付の上、説明をお願いいたします。

○事務局 それでは失礼いたします。

ただいま配付いたしました「令和3年度使用教科用図書の特筆事項(中学校)」については、各委員の皆様におかれましては、実際に教科書を手にとって御覧になりながら、机上の調査報告書(写し)を基に「特によい、優れている点」についてございましたら、この用紙に御記入をいただければと考えております。

なお、こちらの用紙につきましても、また、先ほど説明申し上げました、ファイルに入っております各配付資料につきましても、本日は会議終了後に回収をさせていただきたいと思っております。

別途、記録用紙等必要な場合は、こちらで準備をしておりますので、お申し付けをお願いいたします。以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、もう1点お諮りをさせていただきたいのですが、先ほどお諮りしました「最もふさわしい」と分類する教科書につきましても、できるだけ複数者、具体的に1者にならずに2者以上にすることで、最終、教育委員会で決定をいただくという形を取りたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長 それでは次に、選定作業の日程について、事務局から案はございますか。

○事務局 では、選定委員会日程を提案させていただきます。選定委員会は本日と14日(火)、16日(木)の3日間を予定いたしております。

以上でございます。

○委員長 日程について案がございましたが、本日と14日(火)、そして16日(木)の3日間とすることでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 それでは、選定作業に入りますが、まず、委員の皆様に変更して教科書を閲覧する時間を少し取りたいと思っております。その際には、事務局からもありましたように、調査員からの報告書(写し)を

御活用いただきながら閲覧ください。その後、教科書について御意見をいただき、分類し、答申案が作成できるよう進めてまいりたいと思います。

それでは、まず「国語」からです。既に「国語」の教科書は机上に用意されておりますが、皆様に閲覧いただく前に、簡単に事務局から各教科書の調査・研究内容の説明をお願いします。

国語

○事務局 失礼いたします。

まず、「国語」でございますが、発行者につきましては、全部で4者ございます。

初めに、東京書籍でございますが、まず、全学年、3学年分全て、裏表紙に言葉の力一覧がありまして、各領域でつきたい力をどの単元で養えるかがまとめられており、子供たちの学びだけでなく、教員にとっても指導に役立つ、そのような意見がございました。また、1年生の171ページを御覧ください。2年生、3年生についても同様のページがありますが、他教科で学ぶ漢字ということで、新出漢字を他教科との関連で系統立てて学ぶことができる、そのような意見もございました。また同様に、1年生の13ページを御覧ください。学年の学び初めにふさわしいガイダンスとしての文章が単元の前に配置されており、国語で学ぶべきことや目指すものが明確となっている、そのような意見もございました。東京書籍については以上でございます。

続きまして、三省堂の教科書を御覧ください。

1年生の40ページ、こちら全学年共通となっておりますが、最初に学習する説明文は、見開きから折込みの形で掲載されており、説明的文章の構成を学ぶには視覚的にも大変優れているという意見がございました。続けて、1年生、39ページや95ページなどにありますように、単元ごとの目標が明確に示されており、生徒の理解だけでなく、教員が授業づくりをするに当たっても配慮がなされているとの意見も出ておりました。また、1年生の74ページを御覧ください。こちらは「学びの道しるべ」というページとなっておりますが、基本の繰り返しが丁寧に扱われており、基礎学力につながる工夫もなされているとの意見も出ておりました。三省堂については以上でございます。

続きまして、教育出版でございます。

まず初めに、こちら3学年とも目次の前に、言葉についての評論文があり、学ぶ姿勢が明確に示されているということ。また、1年生の186ページには「学びのチャレンジ」というコーナーがあり、ここでは2つの文章を読み比べ分析した後、自分の意見を書く課題が設定されており、思考力、判断力、表現力を養う実践的な問題に取り組むことができるとの意見が出ておりました。教育出版については、以上でございます。

最後に、光村図書です。

こちらは、1年生、32ページを御覧ください。比較分類などの思考ツールがまとめられており、生徒の学びをそろえ、それぞれの実生活に役立つスキルを身に付けることができるといった意見や、同じく1年生の114ページを御覧ください。こちらは、各教材の後に、見通しを持つから振り返るまでの活動が示されており、学習の重点が明確である、また、教員にとっても指導に役立つなどの意見が出されておりました。

「国語」につきまして、事務局からは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、これより10分程度、教科書を見ていただく時間をお取りしたいと思います。では、よろしく申し上げます。

(教科書閲覧)

○委員長 時間となりましたので、閲覧の時間を終えたいと思います。

それでは、ここからは委員の皆様は御意見をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、御意見ございますでしょうか。

お願いたします。

○委員 基本、学習指導要領、国の検定を通過して、どの教科書も大変「主体的・対話的で深い学び」に向けた工夫がなされているというように思いました。今回、情報活用能力というのが全ての教科の基礎的なものに位置付けられたということがございます。全4者、調査員の報告を基に、情報活用能力について、見させていただいたところ、まず、光村図書ですが、9ページから10ページの思考の地図というところが、マッピングやウエビングなどの例が書かれています。加えて、先ほど事務局からもありましたが、1年生の271ページに情報整理の方法ということで、受信する力と発信する力、これを光村図書は重点的にいろんな方法で力をつけようというふうに見ました。

それと、もう1者申し上げますと、三省堂の1年生の275ページを見ていただけますでしょうか。ここに情報を活用すると、資料編のところですけども、インターネットで探す、図書館で探すとか、情報探しの方法とか、かなり詳しく書かれています。これが3学年とも全て記載されています。当然、情報は言語活動が中心になりますので、本市が目指す言語活動、言語能力の育成につながってくるかなというふうに思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、他にいかがでしょうか。

お願いたします。

○委員 この調査員の報告書を見て、教科書を改めて見ましたが、三省堂の調査員の、4番の組織・配列の中に、各単元の表題が全学年統一されており、学習目標の形で示されている。全学年で目標、内容、取扱い時期がそろえられ、学年を超えて学びの共有ができるとあります。これを確かめるために、それぞれの学年の目次を見ますと、確かにそのとおりになっており、最初に、1番目、豊かに想像する。2番、わかりやすく伝えるといった形で、全て項目がそろっています。このことによって、1年生、2年生、3年生の学びを学年だけで終わらせるのではなくて、1年生と3年生で学び合ったことを交流するなど、系統的に、異学年の交流も可能な構成になっていると思います。本市が目指している9年間の学びをつなぐという視点で、こういった点は工夫されていると感じ取りました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いたします。

○委員 三省堂と、光村図書と、先ほど御意見ありました比較とか、分類とか、データのことに関してですが、光村図書と三省堂は結構ここを手厚く書かれてるということがあって思っています。この論理的な考え方、思考、それは大事だなと思っています。光村図書の1年生32ページには、このExcelの表のようなマトリクス的な考え方があり、これは、物を客観的に見るに当たって非常に大事な物の考え方で、こういう表を作ると、冷静に考えられるということ、ビジュアルで書いてあるというのが良いと思います。ほかの教科書では、三省堂は、あるんですけども空白になって、自分で書き込む形になっています。まずは、こういうような考え方でやるんだよとアナウンスをしてあげるのが、1年生にとっては適切かなと思いました。

後、東京書籍も、従来からの国語の教科書かなという気がして、スタンダードというのか、ベーシックというのか、そういうような考えならば、この東京書籍は良いというふうに思いました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 情報活用能力であったりとか、本市はICT機器を環境整備して充実させています。また、今後、子供たちは一人1台のタブレットパソコン等を活用して授業をしていくことから、QRコードに注目して教科書を見ました。そうしますと、光村図書であったり、三省堂のところにはQRコードがついているページがあって、実際に中を見てみますと、一人で調べ学習ができる構成になっておりましたので、そういったICT活用も本市の場合はできる環境がございますので、そういったことの活用が可能な教科書は子供たちにとって活用しやすいのではないかと考えました。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 調査員の調査報告、本当にきめ細かく、どれも納得、説明のわかるものですが、今回客観的なもので、大阪府のデータのほうを用意していただいています。参考に、今、委員からもありました情報機器の活用についてですけども、国の21ページにあるように三省堂が10か所、光村図書が9か所、東京書籍も9か所ということで並んで、ほぼ同じぐらいですが、図書館活用につきましては、東京書籍、三省堂、光村図書、この3者が同数ということです。実は、言語、言葉の力というのは、どの教科書も力を入れられていますけども、その上に、言語、文法、語句、漢字等の扱いというところもあり、そこでは、三省堂が52か所、光村図書50ということで、ちょっと2つぬきんでるかなと思いました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。いろんな視点で御意見いただけたらと思います。

お願いします。

○委員 それぞれの、1年生を見ていて、小学校6年生を終えて中学校に上がったときに、国語として学んでおかなければならない指導事項というのがあります。その指導事項について、具体的に、例えば、三省堂だと、これは調査報告にもありましたが、6ページの領域別の表について丁寧に書かれてるなということ、先ほどの「ペンギンの防寒着」のところの、国語の教科書で取り扱われている内容については、説明文、物語文、それから古典、詩、古文と、これが主なものだと思いますけども、物語文というのは、例えば、物語に出てくる登場人物の心情を読み取るとか、その心情を、背景とか行動描写から読み取るとか、そういうことが主になりますが、説明文の構成を、基本的な構図をこういうふうな文書を使って説明しているものは、どこの教科書にもないと思います。説明文というのは、おそらく授業をされている先生方は、この構造にのっかって授業を意識してやっているという方は大切ですけども、なかなか少ない。これが教科書の1年生に書かれているというのは、これからの3年間の国語と、1年から6年までの既習事項を振り返ることができる内容だなと思います。さらに、三省堂の、84ページが読み方を学ぼうということで、物語文の行動描写について説明がある。それから、180ページには、物語文の情景描写について説明があります。それから、192ページには、説明文の要約について説明がある。このように構造的に書いているものは非常に少ない。

東京書籍も230ページに指導事項のことが一定書いてあるが、例えば、これは言葉の力で分析する力とか、1年、2年、3年と学年に分けてやっているの、指導事項というのは全ての学年に、縦で共通するものなので、三省堂のほうの方が非常に丁寧でわかりやすいかなと思います。

光村図書も、東京書籍よりはわかりやすく、光村図書の224ページは文法とともに表現技法でま

とまっている。倒置とか、省略とか、直喩とか、隠喩とか、これも指導事項の一部ですけど、先ほどの三省堂は教材ごとに取り上げられているから、わかりやすいと思います。先ほど委員が言われた選定資料を見ると、国語の21ページから、いろんな分量のことがあり、領域別の取扱い箇所と、箇所数と、ページ数というのがあります。一番多いものをチェックすると、例えば、話す、聞く、読む。文学的文章を読むこと、説明できることが、ありますが、三省堂は、取り上げているページ数が一番多い。それから、読むことに関して、説明的文章の箇所数が一番多い。読むこと、古典に関しては、箇所数もページ数も一番多い。言語、文法語句、漢字については箇所数が一番多い。でも、総ページ数としては教育出版が742ページと突出しているが、数的な負担は余りない。次に取り上げられているのが、光村図書がやはり、話すこと、聞くことの箇所数が一番多い。書くことについては、光村図書が双方とも多い。だから、光村図書の教科書の特徴はこういう書くことに力を入れてるのかなという気はします。後、読むことの箇所数が光村図書が多い。言語、文法語句、漢字は、ページ数が光村図書が多い。今、観点の、取り上げられている箇所数は光村図書が167、東京書籍がページ数は742ということなので、三省堂とか光村の内容が量、負担も考慮しながらバランスよく取れていると思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、特に御意見よろしいでしょうか。

お願いします。

○委員 各者比較させてもらって、各単元で学ぶことが均等に明示される中で、使いやすくなっていると思うんですが、1点、三省堂の1年290ページに、教科の学習をどう生かすかというところに絞り社会生活に役立つ形の文の構成の仕方とか、手紙の書き方とか、具体的にまとめられていて、活用に生かせるような構造、構成になっているところが他者と比べて、わかりやすく書かれているということがあります。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、たくさん御意見いただきましたので、まとめさせていただきますが、今、優れている点いろいろお聞かせいただいて、「最もふさわしい教科書」として答申するのが三省堂、そして光村図書。次の、「よりふさわしい」というところで東京書籍。そして、「ふさわしい」が教育出版というふうに、まとめさせていただきましたが、その3分類で御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長 では、次の教科に移りますが、今のような流れで、まず教科書を見ていただいて、そして、優れている点、よいなと思った点をできるだけいろいろ多面、多角的なところで御意見いただけたらと思いますので、次の教科もよろしく願いいたします。

それでは、準備のほうをお願いします。

書写

(教科書配付)

○委員長 続いては「書写」です。

それでは、まず事務局より説明をお願いします。

○事務局 失礼いたします。

「書写」につきましても、合計4つの発行者がございます。

まずは東京書籍でございます。

初めに、32ページ、33ページを御覧ください。こちらには、行書の点画を4つの動きにまとめられていてわかりやすいという意見や、また、30ページ、66ページ等にもございますが、特徴として

イラストや漫画が多用されており、生徒たちの興味、関心を引き、親しみやすいのではないかと、そのような意見が出されておりました。また、13ページを御覧ください。こちらでは、自分の文字の書き方を振り返って見直すことができる工夫がなされたページもあるということで、子供たちにとっても有効ではないかと、そのような意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、三省堂の教科書を御覧ください。

初めに、64ページにあります、主体的、対話的に取り組める内容ということで、子供たちが実際に書き入れながら取り組む内容が取り上げられている。また、52ページ、色で学年が分けてあり、いつどのタイミングで学習する内容なのかを視覚的にも、感覚的にも生徒が理解できるような工夫がなされている。最後に31ページを御覧ください。こちらでは、数字やアルファベットなどのなぞり書きも多く記載されており、また、横書きも珍しいのではないかと、そのような意見が出されておりました。三省堂については以上でございます。

次に、教育出版を御覧ください。

初めに94ページ。子供たちの身の回りの表現に触れながら、実生活と照らしながら、主体的に学べる工夫がなされていることや、次に、10ページを御覧ください。書写で学ぶことが具体化され、子供たちにとってもイメージがしやすいような記載、工夫がされている、そのような意見もございました。また、最後に、22ページを初め、目次にもたくさん出ておりますが、コラムの内容が大変豊富で、生徒の興味を引く内容が多く取り上げられているという意見が出ておりました。教育出版については以上でございます。

最後に、光村図書を御覧ください。

初めに、まずは分冊が光村図書についてはついております。取外し式の書写ブックがついておりまして、見開き開けていただきますと、生徒たちにとっても、また、指導する教員にとっても大変扱いやすいのではないかと、そのような意見がありました。また、60ページ、61ページを御覧ください。こちらでは筆順の内容が示されており、一目でわかり、自学自習につながるのではないかとという意見。また、最後に、32ページなどがございますQRコードが光村図書については豊富で、こちらでも生徒の自学自習につながりやすい配慮がなされている、そのような意見が出ておりました。

「書写」については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、これより閲覧時間を取らせていただきます。今回4冊ですので、先ほどより時間は短目に設定させていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは、お願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 時間となりましたので、閲覧の時間を終え、ここからは御意見をいただきたいと思ひます。

それでは、いかがでしょうか。

お願ひします。

○委員 調査員の資料から見たんですが、光村図書の40ページ、41ページのところに、目標、学習の窓、振り返りという3つのポイントが各ページに示されてることが書かれてあり、学習の流れが深まるような仕組みがなされています。また、この光村図書の全ての毛筆のところのページですけれども、例えば68ページ、69ページに書いている字ですけれども、ここにQRコードがついています。実際試してみたんですが、QRコードを示すと、実際に書く様子が1画ずつまねができるような仕組みになっています。ですので、授業の中で最初に、師範の形で教員がすることもありますがけれども、その後はICT機器を活用して、自分で繰り返し見たり、また、個別の学習を家庭でもすることができる仕組みになつてると考え、工夫されてると感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員 先ほど事務局からも説明ありましたが、「主体的、対話的で深い学び」ということで、教育出版の、コラムが充実している。また、最初の10ページに学びのゴールが示されている。調査員の報告にも記載されているんですが、すごく大事であると思います。私も少し考えてみたんですが、教育出版さんだけは、手本が右にある。ほか、三省堂と東京書籍は左。光村図書は1ページにまたがってあるんですが、子供たちは小学校から習字を取り組んできまして、中学校で、まず手本があって自分たちで考え、実際取り組んで、また振り返ろうというのが、これは一つの推論かもしれないんですが、「主体的、対話的で深い学び」の一つの方向性かなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 4者とも、構成自体は同じような内容なのかなと思います。その中でどのように違うか等、特徴を見つけるかという、光村図書の別冊というのは、確かに斬新な試みで、ページが29ページから始まるというものは、なかなかやなと思ったんですが、ただ、光村図書の中で、98ページです。このユニバーサルデザインの書体というものは、実は世の中では結構、利用されておりまして、オリンピックとかの文字、ピクセルとかも変わっているというのはあるんですけども。文字というところで、ここに触れているのはほかはなかったと思ってまして、少し一歩社会に向けたことを学べるころかなと思いました。

後、教育出版の56・57ページ。これは少し個人的にも興味があったんですが、写真とはいえ、本物が資料として載っているということで、例えば、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」、歴史的に有名なものが、こういう文字で書いてるとか、後、野口英世のお母さんの言葉って、なかなかいいことをすごく書いてあるので、書写の勉強とは少しずれるかもわからないですけども、こういうのがあると興味を持ってもらえるのではないかなと思いました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 各者の書く時の姿勢というところで、全者明記されてるんですが、三省堂、東京書籍、教育出版なんですが、大体4点ぐらいで大きく分けてるところ、光村図書だけ、各箇所矢印をつけて、丁寧に細かく書いていただいているので、姿勢の取り方を大まかに書かれるよりもわかりやすく示されてるかなというのが1点。同じように、中学校の教科書ということで、願書の書き方というのが、全者同じように載せておりまして、ペン字等の活用ということであるんですが、この構成の中の例文の作り方が、いろいろ子供たちの実践にあったようなものを例として挙げていただいているので、その分だと光村図書がわかりやすく示されてるかなというのと、もう1点が、教育出版の112ページなんですが、いろんな文章の構成の形は書いていただいているのですが、この112ページに案内文、一番身近でよく作るようになってくる文章の構成、これ丁寧に示されてるのが教育出版の教科書になると思いますので、ここが他者と同じような書き方の中で、少し工夫がなされていると思います。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 書写は時間も限られていて、基本、毛筆、硬筆、それから楷書、行書、これが内容だと思えますが、いろんな意見も出てるのですが、文字をその書体に沿って書くということだけではなく、その文字の成り立ちとか、歴史的な背景とか、先ほどの古文の作品が出ているとか、それ以外に、この文字を書くとか、文字を学んでみるということにどう興味を持たせるかというところが、それぞれの発行者の苦労かなと思って見てたんです。調査員の報告にも出ていますが、そこそこ工夫して充実しているのが光村図書と教育出版かなと思って見ています。先ほどの、例えば、宮沢賢治の文字が実際に出てきたとか、教育出版で言えば、例えば、22ページは筆、墨、すずり、紙について知ろうなど、職人さんが墨を固めて作っているとか、こういうところが出てくる。それから、光村図書であるんですが、学校生活に活かして書く。教育出版は本の帯とか、少しポップなところに文字が使われている。ポスターもそうですけど。書写でなく、書写で培ったものが教科横断的に、例えば、美術科だとか、そういうところにもつながっていく内容になっているなど。後は、身の回りの実生活の中からもいろんな書体があるというのを、光村図書と教育出版だけ、何かこだわってやっている。教育出版はお城の石碑の字体を並べて、まあ、お城が好きな人は、もう面白いだろうなと思って。後、実生活にということではがきの書き方とか、祝袋とか。はがきの書き方とか、手紙の書き方などは全国学力テストでも、出題されたりしていますので、こういうことをそれぞれ意識してるとは思う。

後の2者は、今、言うてますような中身が少し薄いかどうかという気はします。先ほども、委員言われたように光村図書の、この書写ブックは取外して、ワークシートになるので、硬筆には使いやすい。左側や、なぞりと硬筆で書くのと、これも面白い。

光村図書も、29ページは墨のことが出ている。84ページには、これがICTにつながるかどうか別ですが、番組のタイトルをデザインしてみるとか。これをパソコンとかタブレットでできる取扱いをしていたり、源氏物語88ページがそういう古典のことに触れていたり。光村図書は96ページですね。お城ではないんですが、全国の文字マップ、少し統一感もいいんだけど、これ面白いなと私は見ていました。石碑や、有名な地名があったりとか、いろんなものを取り上げて、地理的なものにも関心が出るのではないかと考えています。94ページにも先ほどのUD書体も取り扱っている。116ページは、同じように入学願書の書き方とか、はがきの書き方とかが、個人的には入学願書まで要らないと思いますが、そういうところの工夫が、この2者については書写とはいえ、他の教科横断的に生かせるような興味、関心が湧くような編集がされている。

○委員長 ありがとうございます。

いろいろ御意見いただきましたが、まだ特という事がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員 すごい小さなことでもいいんですか。教育出版なんですけど、右側に文字があるので、左手がとても書きやすい。左ききの子でも使える。結構、書写って書きにくい。払いとかが。右で書かないといけなくて、それを考えたら、右側にこの大きい文字があるほうが、左ききの子でも使いやすいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

いろいろな角度からの御意見ありがとうございました。

今、いただいた御意見から分類させていただきますと、「最もふさわしい教科書」は教育出版、光村図書。そして、その次点になる、「よりふさわしい」ものとして東京書籍、三省堂というふうに、分類させていただきましたが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長 ありがとうございます。

ではここで少し休憩時間を取りましょう。5分程度休憩時間を取りたいと思います。

(休 憩)

社会（地理）

○委員長 それでは、よろしいでしょうか。

続いて「地理」に入らせていただきます。その前に情報としてなんですがICT機器の整備ですが、今年度中、2月ぐらいをめどに、全ての小中学校のお子さんお一人お一人にiPadの端末が整備されます。

○委員 iPadですか。

○委員長 iPadです。

それがもう、一人1台で常に授業中でも、それを机の上に置きながらの学習が今後できます。そんなことも知っておいていただけたらと思います。

では、「地理」のほうに入らせていただきます。

事務局、説明をお願いします。

○事務局 それでは、「社会（地理）」、こちらが発行者については合計4者ございます。

まずは、東京書籍を御覧ください。

初めに13ページや21ページでございますが、教科書全体的に単元のまとめに思考ツールを用いるなど、みんなでチャレンジとか、こういったコーナーを設けることで思考力の育成に重点を置いているという意見や、また、巻頭の3ページ、55ページ、270ページなど、SDGsを明示しながら、持続可能な社会のための地理的分野における学習目標。こういったことも明確化されているというような意見。最後に、37ページの下段ですけれども、ほとんどのページに、1単位時間ごとにチェックで基本的内容を確認し、また、トライで今後探求していくという、そのような構成についても工夫がなされている、そういった意見が出ております。東京書籍については以上でございます。

次に、教育出版を御覧ください。

こちらは、巻頭ページに、まずは小学校での既習事項の記載、こちらが明示されており、学びの連続性を意識され、つながりが感じられるという意見。また、10ページや26ページなど、タピオカや御当地キャラクターなど、生徒たちにとって身近なものや話題を導入に使っていると、そういった工夫がなされているというような意見が出ております。

それでは、次に、帝国書院の教科書を御覧ください。

こちら、巻頭ページにSDGsを目指した地理的分野における学習目標の明確化が、記載されているということや、64ページ、65ページなどには、それぞれの章や節の振り返りで、地理の見方、考え方を意識させ、知識や思考力、判断力、表現力等の観点が明確に示されている。最後に、134から137ページ御覧いただきまして、これらには地形図の見方を習得しやすい資料等が用いられている。こういったことも、この帝国書院の特徴として挙げられるのではないかといい意見が出ておりました。帝国書院については以上でございます。

最後に、日本文教出版を御覧ください。

37ページや103ページになりますが、文章や口頭説明では難しい事象につきましても、具体的な図で示し、理解しやすい工夫がなされていたり、また、100ページや108ページ、こちらに鍵のマークがあるかと思いますが、見方、考え方を深める問がそれぞれ用意されるなど、子供たちのより深い学びについても効果が見られるのではないかといい意見が出ておりました。

「社会（地理）」については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、少しお時間を取って、閲覧していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(教科書閲覧)

○委員長 よろしいでしょうか。

時間となりましたので、ここからは御意見等を頂戴したいと思います。

それでは、いかがでしょうか。

はい、お願いいたします。

○委員 日本文教出版の100ページ、101ページを見ながら、他者とも比べているんですが、4者ともに、主体的、対話的で深い学びをしていく上で、学習課題の提示があったり、また、見方、考え方の視点を示され、101ページで深め合おうというところで子供たちの話し合い活動。最後に確認で、まとめる活動が入れられるように、どの教科書もおおむね同じような形で構成されています。この見方、考え方というのが示されているのが、この日本文教出版と、それから、東京書籍は明確に明示されています。また、事務局から先ほどありましたように、帝国書院のほうも見方、考え方を単元末で確認できるように、64ページ、65ページのところで示されています。社会の学習で、私が、以前研究会で学んだのは、一つの学習を終えた後に、その学習だけにとどまらず、その学習を終えたことで、例えば、一つの眼鏡を習得して、その眼鏡をかけて世の中を見れば、1つの学習から学んだことが違った視点で見えるようになる。そういったところで、こういった見方、考え方に視点を置いて、教科書が工夫されているかなと考えています。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 今の委員の、付け加えなんですけども、日本文教出版のほうは見方、考え方ということで、表紙裏、最初に地理との出会いというところで、これは調査員も触れています。初めて出会う中で地理的な見方、考え方は何かということ。1ページ目ですから、教員も丁寧にしっかり扱ってくれる。ここを基本にやっっていこうということで、もう明確な方針が出されてると思います。

それと、帝国書院は、SDGs、これを地理の一番最初に持ってきてまして、子供たちにこういう学びをやっっていこうというふうに思います。それと、地理のほうなんですけど、先ほども、委員長のほうからありましたけれども、帝国書院の2ページ、タブレットで見る地球儀というのがありますし。163ページにはドローンによる配達の実現を目指してということで、社会がこういうふうになんて変わっていくというのを示している。これはいいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほど委員のほうからもありましたが、振り返りや見方、考え方という点で、帝国書院253ページ、255ページ、256ページを見ていただくと、他者は大体、各地方とか学ぶときに文化と地形と別々になっているのですが、帝国書院のほうで、各文化と地形の関連性等をそれぞれ見て考えられるような作りになってますので、教員のほうが上手に活用することで、より深めた学びにつなげられる教科書の構成になってると思います。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 帝国書院ですけれども、皆さん御意見があったとおり、地図、地理系は帝国書院かと思いません。今、言われた、この地域別の説明とか、これが確かにうまく、流れも出てるかなというのとはすごく感じています。

後、教育出版の表紙裏の宇宙から撮った日本列島というものです。これがすごいインパクトがあると思ってまして、自分の家がどこにあるかって見に絶対行きたくなるかなって、グーグルアースみたいな感じですかね。

この後に、多分地図を論議するのです。地図と地理って多分引っ張っとく方がよいのではないかと考えていて、地図は東京書籍と帝国書院しかないんです。ですので、ある意味、ちょっと偏って申し訳ないですけども、この二択かなと思ってまして。地理と地図を変えるのはどうかなというふうに思っています。帝国書院のほうにも地図の見方っていうのがあって、連動されているので、当然、子供たちにとっては同じほうがいいのではというふうに思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 府の選定資料で、17ページ、世界と日本とか、日本と世界とのつながりとか、世界の各地の取り上げている諸課題、地球的課題の視点で書いてある。守口は大阪、近畿なので、18ページを見たときに、日本の地理的特色をとらえさせる、中核とした考察の仕方と書いてあるんですが、例えば、その近畿を見ると、東京書籍が人口や都市と村落。教育出版が歴史的背景。帝国書院が環境保全。日本文教出版が歴史的背景なんです。だから、自分が住んでる、大阪ですけど、一番近い、その近畿地方を教科書としての視点でとらえてるかというのは、結構注目されるなと思って見てたんです。例えば、帝国書院は206ページからずっとあるんですが、環境保全が中核的な内容だと書かれているので、取り上げてる内容は近畿の自然から始まって琵琶湖のこととか、それから阪神工業地帯、これも、環境問題の取組とかを書きつつも、例えば、観光業の京都、奈良、歴史的環境保全、環境を主体的に、観光業も見てるといふのと。その中で、209ページに近畿地方と朝鮮半島の結びつきとかコリアタウンのことが、書いてあるんです。それから、もちろん211ページには東大阪のものづくり、ここも入れてある。こういう近畿の特徴的なものを環境の視点から見てるといふ見方も悪くないなと思っています。

では、そこで日本文教出版を見てみたら、日本文教出版は同じように近畿地方は194ページ。歴史的背景と書いてあるのです。歴史的背景を見てみたら、最初は自然との関わりとか、その次が阪神。京阪神の大都市圏の歴史を見てみましょうということで、歴史の観点が書いてある。現在に息づく歴史的都市の特色ということで、ここで文化的なことが書いてある。港町神戸、大阪湾、この辺りも書いてました。ここも、世界とつながる大阪。これは大阪ですけど、コリアタウンが出ていたり、関空のことが出ていたりしてる。産業のことにいくと、ここは少し面白いと思うのは、先ほどの東大阪のものづくりだけではなくて、例えば、堺とか、西陣とか、後、ポートアイランドの医療センターとか、ちょっと幅広く書いてある。ただ、203ページを見たら、世界遺産になった仁徳天皇陵があるんで、堺ばかりかなと思ったりもするんだけど、ここもそういう内容で取り上げている。

教育出版は、同じように、歴史的背景ですね。近畿地方は202ページから始まるんですが、きれいな写真がたくさんカットで入っている。ちょっと他者と違うのは林業が大きく取り上げられているかなというところがあって、歴史的背景、自然環境から振り返って、京都の町屋のことと言われているので京都が中心かなと。ものづくりも書いてます。東大阪もちろん書いてあるし、阪神工業地帯も書いてあるし、都市の成り立ちと、こう書いてあるんですけども。琵琶湖の水利用って書いてあるけど、取り上げている内容の広さから言うと、ちょっと、先ほどの2者より狭いかなと。

東京書籍は非常に一般的な、何かこう、関東から近畿を見ているような感じの捉え方をしているので、少しなじみがないかなというような気がします。ニュータウンも。阪神大震災は書いてあるけど。そういうような特徴があって、じゃあ、近畿の子供たちが、大阪の子供たちが学ぶんだったら、自分とこの地域を知ろうと思ったら、帝国書院、教育出版、この辺りの取り上げ方のほうがいいんじゃないかなとは思いました。

○委員長　ありがとうございます。

他によろしいでしょうか。

お願いします。

○事務局　先ほど委員のほうから、地理と地図を一緒にということ、貴重な御意見いただいたわけですが、調査員の報告を見ますと、帝国書院のほうはやはり地図も出されてて、地図の見方という点からもおっしゃられたように充実しているようです。一方、東京書籍のほうは、そうではないんです。地理は地理の見方ということで教科書があって、地図は地図を、それを活用するという、後ほど地図の選定と行っていただくわけですが、その辺り、他の委員からも御意見があったらいただきたいなと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

その地図との関連という御意見はいただいているので、他に御意見、よろしいでしょうか。

分類なんですけども、今、明らかに「最もふさわしい」と属するのが帝国書院になると思います。2つ目は日本文教出版というふうに、今、考えているんですが、よろしいですか。続いて、東京書籍、教育出版については、教育委員の皆さんも、地図との関連という御意見を持たれる可能性もありますので、東京書籍も教育出版も、2つ目の「よりふさわしい」というところに入れさせていただいて、教育委員会、当日も委員の皆さんから、こちらもぜひ当日議論したいというような意見が出ておりますので、そこにしっかりと上げていただけたところで、止め置いたらどうかなと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員　日本文教出版はどうなんですか。

○委員長　日本文教出版が「最もふさわしい」の分類。ですので、「最もふさわしい」が帝国書院、日本文教出版。そして、次点の「よりふさわしい」に東京書籍と教育出版2者を入れております。こうまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長　では、そのように答申案とさせていただきます。

続いて、「歴史」です。準備をお願いします。

社会（歴史）

(教科書配付)

○委員長　よろしいでしょうか。

それでは、事務局説明をお願いします。

○事務局　失礼いたします。

「社会（歴史）」につきましては合計6者の発行者をお伝えさせていただきます。

まず初めに、東京書籍でございます。

123ページの下段、ほぼ全てのページがそうなんですが、各授業時間のまとめの課題が章末のまとめの探求課題につながるように設定がされており、学習のつながりが見えやすいものとなっているという点。また、156ページなど、みんなでチャレンジのコーナーでは、授業を進める上で活動しやすいテーマが取り上げられており、そこまでに学んだ知識を生かし、グループで協力しながら対話的な活動

を行いやすいよう工夫がなされている。また、その中で学習内容が進化する深い学びが実現されるようになっている、そういった意見が出されております。

では次に、教育出版の教科書を御覧ください。

まず2ページ、3ページ。小学校の社会科学習との関連性を意識している部分が多く、歴史の流れを歴史すごろくとして、小学校で学んだ人物史を振り返りながら、時代の流れを読み取らせようとしている工夫。また、特徴的なのが17ページなど、学びリンクとして章ごとに文化遺産オンラインなど、学習に役立つサイトが紹介されており、自分の興味を持った分野について調べていくことができるような工夫がなされていると、そのような意見が出ております。

では次に、帝国書院を御覧ください。

初めに、144、145ページには多面的、多角的に考えてみようというものがあまして、吉良邸に討入りをした赤穂浪士をどう処分していくのかや、同じく230ページ、231ページには同様に、大正デモクラシーの中で、これからの女性のあり方をめぐる3人の論者の意見を検討させ、それぞれの根拠等を踏まえた上で、自分の意見をまとめ、それを基にグループ交流させ、意見を深めさせるという、そういった工夫が見られるなどの意見が出ております。加えて、121ページや177ページの右上にあります、主な関連事項等、関連するページが明記されており、他の歴史事象とつなげて学習を深めていきやすい構成となっていると、そういった意見も出ております。

では次に、山川出版を御覧ください。

初めに、全体的に本文や資料ともに高校の歴史学習とのつながりを意識しているため、より高度で発展的な内容になっておりますが、例えば、64ページ、65ページにありますように、用語解説が充実しており、また、他のページの関連個所も示されているため、自主的に生徒が学習を進めていけるような工夫がなされているという、そのような意見。また、132、133ページなど、各授業時間のまとめとなるステップアップのコーナーで、単なるまとめではなく、学習した内容を踏まえて、より深く考えていける課題が設定されるなどの工夫が見られると、そのような意見がございました。

続きまして、日本文教出版を御覧ください。

こちらは全体的に資料が非常にわかりやすいという意見がございました。具体的には、78ページから81ページ、様々な写真や資料。また、106ページから110ページにかけても具体的な資料が取り上げられているということ。次に、104ページ、105ページなどには、グループ学習等を通して、最後は時代の特色を文章表記でまとめる形になっており、言語活動の充実にもつながるのではないかと。最後に、102ページ、103ページなど、先ほどの点と重なりますが、より活動を通した学びが多く取り上げられており、教え込みになりにくい配慮がなされているのではないかと。この意見がございました。

それでは最後に、育鵬社を御覧ください。

146ページ、147ページなどには、歴史ズームインというコーナーがあり、16項目にわたって発展的な学習内容が提示されております。例えば、神話に見る我が国誕生の物語や、浮世絵の影響、「坂の上の雲」の時代など、多面的、多角的に日本の歴史について考える材料が提供されていること。また、19ページから23ページなどには、章の導入部分が充実しており、最初のページに章を象徴するような絵図が登場し、絵図の読取りを通して学習する時代の特徴について気づかせてようとするような工夫があると、そういった意見が出ておりました。

「社会（歴史）」につきましては、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、見ていただく時間を取りますので、お願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは、時間となりましたので、ここからは皆様の御意見をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 まず日本文教出版、最初の事務局の説明からありましたように資料がわかりやすい。調査員も、指導する教員のほうからも、やはり資料がわかりやすくて豊富であるというのがまず1点です。例えば、104ページに学習の整理と活用というところがありまして、年表があつたり、いろんな整理をするだけでなく、105ページにはアクティビティ、調べ活動とか、自分たちで対話したり、グループで話し合ったりしてやっていくと。その学習の流れとしてステップ1、ステップ2、ステップ3と、こういう補助的なものをしてありますので、教える教員にしても、進捗状況とかもわかりやすいのかなと思います。それともう1点、実は300ページから305ページに、これはとても大切かなと思うんですが、歴史との対話を未来に生かすということで、やはり歴史を学びつつ、それを未来に生かしていくということで、やはり子供たちに希望を持って取り組んでいこうというメッセージがあつていいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 何者かあるんですが、日本文教出版さんと教育出版と帝国書院で、この歴史の学習の中では、やはり世界と日本の時系列というところを押さえることが、すごい関連づけて学べるかなと。この3者については、各ページ、教育出版は5ページの、各項目の一番初めのところに年表でどこの位置にあるかというのが出てまして、帝国書院と日本文教出版のほうは、この横をめくると、ここにどの時代の内容がというのがあるので、ここで世界と日本の比較というものを学べるような工夫がされています。

後、考える作業ということ、東京書籍と日本文教出版なんですが、話し合い活動とかのきっかけを一番多く載せていただいているのは東京書籍なのですが、特にどこを話し合うとかの指定はないんですが、日本文教出版8ページ、8、9、10、11ページ、全体的な形で話し合いの中で学びを深めるという取り組みのサポートをいただいているので、この部分が授業作りと子供の学びに生かせるかなと感じます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほどの地理とも同様の視点で、主体的、対話的、深い学びができる教科書はどれかなというところで見えています。どの教科書も課題を設定して、最後に振り返るようになってはいるんですが、子供たちがぱっと見て、そういったことがわかりやすいなと感じたのは日本文教出版であつたり、東京書籍、それから教育出版、それから帝国書院、この4者は子供たちにとっても、また、教える側の教員にとっても明確に示されているかなと思いました。その中でまた、先ほどもこだわった見方、考え方、今回は歴史的な見方、考え方になるかと思いますが、そのことが明確に示されている教科書が東京書籍と、それから日本文教出版、これは各教材ごとに、見方、考え方が示されているので、子供たちがこの学習を終えた後に、そういった見方でいろんなことが考えられるようになるのではないかなと、この2つの発行者が工夫されていると感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員　父兄なので、僕は、学校、教育側ではないので、やはりこの領土問題の書き方を見てみたいなどと思って、書いているのが育鵬社と日本文教出版が日本の領土であるということを書いてあるというのを、ほかもちゃんと書いてあるのかもわかんないですけども、全体的な構成についてはもう、皆様のほうにお任せしますが、内容については、ちょっとそこは歴史については、フューチャー、そんな感じではないかなと思ってます。

○委員長　はい、ありがとうございます。

○委員　後、山川出版は、何かこの色合いも本当、高校時代にもらった教科書みたいな。

○委員　特に、好きな子にとってはいいかもしれないです。

○委員　育鵬社は、やはりビジュアルがいいですね。内容もそこまでは偏ってないと思いますし、ビジュアルがすごく見やすいです。

以上でございます。

○委員長　ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

今、日本文教出版は、すごくたくさんの御意見をいただいている状況かなと思いますが。

お願いします。

○委員　歴史なので、先ほど委員が言われたように、近現代のところはどう書かれているのかなというのを中心に見てたのですが、帝国書院の後ろから見ていくと、例えば年表、年表は日本文教出版と帝国書院だけが日本と世界と、基本分けてるのですが、真ん中に日本と世界の関わりを入れてある。ほかは大体分かれてある。だから、対比しながら日本と世界の部分になる。でも、この2者だけは、日本と海外との交流ということで、真ん中に、その年表を入れてある。これは1つ特徴かなと。後、近現代のところで見えていくと、帝国書院は、先ほど未来に向けてというタイトルで、近現代のところには人権的な視点が結構入ってるのですね。環境、人権が入ってて、先住民の話や拉致の問題とか、それからノーベル賞も、男女共同参画とか、言論の自由の回復と戦争へのまなざし（P 278）とか、黒澤明監督が出たりとか。沖縄基地問題も、過去の戦争だけじゃなくて、現在も基地があって、小学校の近くを飛んでいるヘリコプターの写真とか。こういう、今、我々もそうですし、子供たちもそうですが、課題になるようなことが右上に載っている。在日韓国朝鮮の問題もそうですし、だから、領土問題が少し載ってなかったかなというのは思うけど、こういう視点で近現代のところに書かれているなど。各国と日本とかをこう書いてある。日本文教出版はやはり、最後の単元のまとめ方が、先ほどの調査員の方にも出たように、いいかなと思います。満州のことが全部載っていない。これは取り扱ってるのは、新世界も載っている。大阪テーマパーク、228ページ。東京書籍は東京タワー。非常に取扱いとしては面白い。

○委員長　ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○委員　すみません、日本文教出版の、292ページ、293のところで、今の話を、もう少し掘り下げてしまうんですけど、竹島と尖閣の書いてあるところですが。下から3行目ぐらいなんですけど、竹島については、日本固有の領土であると主張し、この問題を「国際法にのっとり、平和的に解決、努力を続けています。」と書いてある。尖閣は、同じ文面なんですけども、「尖閣諸島は外国の領土になったことが一度もない、日本固有の領土であることは明らかです。」こっちは書いて。この配慮の仕方、何かすごい微妙かなと思ったりします。選定の話じゃないんですけど、竹島も、向こうの方と持ってそういうふうにとっています。こういうところも何か。

○委員 この表記で検定通ってますからね。

○委員 これ、私、さっき「地理」でも、竹島を全部並べてみたんですけど、「地理」は全部載っていて、大体同様の、日本が強く抗議を続けているというような、書きぶりでした。

○委員長 わかりました。

他にいかがでしょうか。

今ちょっと、日本文教出版と、もう1者「最も」というところで、御意見をいただいている中、東京書籍と教育出版と帝国書院、この3者が少し今、まだ並列的な感じかなと思うんですが、できれば、「最もよいところ」は複数入れたいんですが、その3者当たりで何か御意見ないでしょうか。

○委員 歴史でも当然言語活動というのは、すごく大事なところでして、東京書籍のほうは60、61ページ、また、思考ツールが入っています。それとまた、146、147にも思考ツールが入っています。これ、思考ツールというのは当然考えをまとめるだけではなくて、みんな同じ形で作りますので、同じ土俵で興味が深まるというので、「歴史」でも、そういったことも大事かなと思います。先ほどの領土問題についても、やはり、子供たちがこういう事実をどう考えていくのかということ、やはり議論することがすごく大事かなと思いますので、言語活動、あるいは、情報活用能力、大事かなというふうに思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

特になければ、お諮りいたします。ちょっと3つの分類なんですけど、まず、「最もふさわしい」は、日本文教出版、そして、今も御意見いただきましたが、東京書籍。続いて、「よりふさわしいもの」が教育出版、帝国書院、育鵬社。「ふさわしいもの」が山川出版というふうに、今まとめさせていただきましたが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございます。

そしたら、今の答申案でとしたいと思います。

それでは続いて、「社会（公民）」ですね。

社会（公民）

(教科書配付)

○委員長 いいですか。続いては「公民」です。今、机上には「地図」も置いていただいておりますが、これはもう、もし時間が行けばということですので、まず「公民」について。

それでは、事務局、説明をお願いします。

○事務局 はい。「社会（公民）」については、合計6者発行者でございます。

まず初めに、東京書籍を御覧ください。

9ページ御覧いただきますと、みんなでチャレンジでは、持続可能な社会について考えようのコーナーで、グループ活動があり、キーワードなどを利用する学習が掲載されております。また、みんなでチャレンジ以外にも、151ページにございますスキルアップや、19ページにございます公民にアクセスなど多角的、多面的な学習課題が設定されているのが特徴であると、そのような意見が出ております。以上でございます。

続いて、教育出版を御覧ください。

初めに、巻頭ページにローマ数字の4ページになりますが、ノート作りの基本形が明確に示されており、学習をスタートさせるのに工夫をされているという点や、また、51ページには、子供たちにもわ

かりやすい視点で、上段に不当な差別的取扱いと合理的配慮ということで示されておりますが、わかりやすい表現で記載がされている、そのような意見が出ておりました。以上でございます。

次に、帝国書院を御覧ください。

まず、全体的に見開きにおけるデザインやグラフ、地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色が使われている、そのような工夫や、また、123ページなどにある技能を磨くのコナーでは、ここでは契約についてそれぞれどのように義務と権利が生じるかなど写真付きで問題が記載されるなどの工夫がなされております。以上でございます。

次に、日本文教出版を御覧ください。

初めに、77ページや121ページにありますように、シンキングツール、これを使って考え、生徒が考えを整理し、活用しやすいような工夫がされていることや、また、全体を通じて導入ページから本文へ入るということで、具体的には、122ページ以降などがそこに当たりますが、導入ページから本文へ入って社会の課題を考える学習などが記載されており、最後172ページのチャレンジ公民のコナーなど発展的な問題も掲載されるという、そのような流れが工夫されている、そういう意見が出ておりました。

次に、自由社を御覧ください。

初めに、162ページなどがございます、アクティブに深めようでは、店の経営者の立場に立って必要なことを話し合っていく内容になっており、既習事項を振り返りながら、実際に社会に出たときに必要な考えを話し合うことができる工夫や、また、14ページなどにあります、もっと知りたいという特設ページでは、生徒の興味、関心を深め発展的な学習として学習意欲を高めるためのコナーが設けられている、そういった意見も出ております。

最後に育鵬社を御覧ください。

こちらも特設ページとして、60ページや70ページに学習を深めようというものが設定されており、特に疑似的なことに触れている特徴があるということで、発展的な学習が記載されている工夫や、最後に、76ページ、77ページには政治の入り口として救急車をタクシー代わりに使う人の増加の問題についての解決策を話し合う課題が記載されていること。また、ロールプレイング形式になっており、生徒が主体的に考えるきっかけとなりやすい。さらに、A議員、B議員、C議員など具体的事例も多く提示されている、そのような意見が出されております。

「社会（公民）」については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、見ていただく時間取りますので、よろしく申し上げます。

(教科書閲覧)

○委員長 時間となりましたので、ここからは御意見を頂戴したいと思います。

なお、本日はもう、この「公民」で最後とさせていただきますので、最後忌憚のない御意見をお願いいたします。

では、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 この大阪府の選定資料を見てですけども、17ページのほうには補充的な学習や発展的な学習ということで、資料やコラムのことについて書かれています。本市のICTの活用を考えますと、ウェブサイト上の情報を得ることのできる教科書のほうが、より子供たちにとってふさわしいのではないかと考えて見ているんですが、実際見れるというふうに書いてあるのが、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版。この4者は使えるということが書いているので、こういった活用ができるほうが望ましいのではないかなと考えます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほど事務局から日本文教出版のほうなんですけども、すごく一連の流れがあるということで調査報告ありましたが、バランスがいいなと思いますのは、77ページに、シンキングツールがある。16ページに情報スキルアップ、あるいは、60ページにネット社会と付き合いおう、あるいは、最後の86ページに新聞の読み方と伝え方を学ぼうというところで、特集を組んでられる。どの発行者もメディアリテラシーということで、当然、情報活用能力は受信と発信があるんですけども、そのときにうそをついてはいけなとか、受け取るときに真偽を確かめるとか、そういう情報モラル、いわゆる批判的に見るメディアリテラシーをどの発行者も使ってられるんですけども、日本文教出版は特に、この情報スキルアップでそこを強調してるということが言えると思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○委員 公民を教える先生は単独でおられるのですか。

○委員長 基本、社会科の。

○委員 先生がやると。

○委員長 「公民」が3年生。「地理」と「歴史」は併行に学習しています。

○委員 高校の免許を持っている人は、「地歴」「公」は2種類なので、聞いていると、中の1種の社会と、例えば高の公と、地とか持っている人は公民が好きだとか、そういうのはありますね。

○委員 結構、公民って憲法とかが入っていて、うちの子でも、これですごい憲法興味があつて。何か一番公民好きだと。だから結構、政治とかもそれで好きになりましたね。

○委員 雑談ぽくなって申し訳ないんですけど、さっきの、議員のまねごととして議論をするというやつとか、それはどうですか。別に必要であるみたいな感じが少ししたので。この育鵬社の、76、77ページ、政治の入り口と書いてあつて。やはりこういうようなことが中3でやるというのは、選挙権が18歳以上になったことですし。育鵬社は、198ページに万博を書いている。これ、25年に大阪万博があるんですけども、万博の記述よりも、その99ページの横の、ソサエティー5.0の話、ここに書いているというのは、何が関係あるのかわからないんですけど、これはちょっと面白いと思いました。ほかのところは記述がない。調べ切れてないですが。次世代の話と考えられます。なかなか公民の内容が進んだ気がします。公民はすごいと思います。この自由社のほうが少し偏った見方をされていますね。全体を今見てみましたが、巻末とかで、一番後ろのところに日本地図載せていて、我が国の領域って書いていたり。

○委員 葛藤するのはいいですね。何かこう、テーマを与えて、日本文教出版に載ってましたが、議題があつて、子供たちで、172ページに社会保障のあり方について考えよう。結構そういうので考えて、子供たちも、それに少し正面向かって、そう考えれるかなと思います。青年の主張じゃないけども、そういう感じで議題を与えてやったほうが良いと思います。この前学校でとり組んだそうです。

○委員 一人ずつが大声を出して主張を言うっていう、そういう授業も大事なかなと思ったりもします。

○委員長 実際こう、覚えるとかだけではなくて、実際にやっていって、考えていくと。

○委員 はい。自分で考えてやって。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 委員長。今の関連でおっしゃったように、子供たちが自分の考えをアウトプットするような、

そういったところでは、日本文教出版の、例えば、68ページ、69ページのところ。このところでは15歳は子供、それとも大人というところで、それぞれの登場人物のところを読み終えて、その後、アクティビティということで、この携帯電話のルール作りを自分たちでやろうということが示されていて、いいなと思いました。また、東京書籍の176ページ、177ページのところには、コンビニエンスストアのお弁当を企画しようとお弁当を、こうやって実際に売るためにはどういった視点が必要なのかということを考えて、またみんなで議論し合おう。こんな工夫もされていて、単に、いろんな憲法のことをインプットするだけじゃなくて、こうやってアウトプットするような仕組みがある教科書がいいなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 この、共生社会と人権という視点のところ、東京書籍だけなんですけど、23ページで、この多様性の尊重というのを取り組んで、その後の項目も順番に見ていくと、この多様性理解というところに視点を置きながら、様々な権利を取り扱っていつていきますので、そういう点が、ここは統一すべきところであるかなと感じるのと、これ、守口で、先ほど委員の話でもあったんですが、守口夜間学級という視点で、唯一取り扱っていただいているのが、教育出版が60ページのところで、これも権利のところ、教育出版も同じように多様性理解というのを初めのほうに出して進めている中で、この夜間学級の取扱いもあるので、より身近にいろんな権利を学ぶことができるかなと感じました。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 全ては見切れてないんですが、帝国書院の107ページから、公民のもう一つテーマであると思うんですが、経済について書かれているところがございます。例えば、111ページを見ると、今、テレビとかのバラエティー番組やってそうな、あなたが無人島に漂着したらどうしますかみたいなことを何か理論的に書いてあったりとかですね。その後、113から115ページ、国産牛と輸入牛の話とかも、株がどうなるのかというような経済の仕組みを書いている。これは直接生活に障るようなところなので、興味を引いて、子供たちも理解できるのかなというような感じを受けました。取り上げるテーマがなかなか面白いかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そしたら、分類のまとめなんですけど、まず、「最もふさわしい」が東京書籍と日本文教出版になるかと思いますが、よろしいでしょうか。続いて、「よりふさわしい」が教育出版、帝国書院、そして育鵬社の3者。よろしいでしょうか。「ふさわしい」が自由社の1者ということで答申案とさせていただきます。よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございます。

そしたら、時間もまいりましたので、本日は、この「公民」で一度区切りとさせていただきたいと思っております。ですので、次回は「地図」のほうからいろいろ御意見を頂戴したいと思います。

改めて確認ですが、次回は7月14日(火)の午後2時、場所はこちらでよろしいでしょうか。この教育委員会会議室で、また始めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、本日の閉会に当たりまして、副委員長より御挨拶をお願いいたします。

○副委員長 長時間にわたりまして、委員の皆様方、いろいろな御意見をいただき、答申案の作成、まだ全て終わってはおりませんが、御苦労さまでした。

広く各学校の調査員、それから、一般の教科書展示に関する意見、それから、調査員以外の先生方の意見ということで、それらを踏まえて審議をいただきました。最終的には、教育委員会のほうで採択をされるということですが、適切な答申案の作成をこれからもしていきたいと思っておりますので、限られた時間ではありますが、第2回目以降の審議についてもよろしくをお願いいたします。

本日は御苦労さまでした。

○員長 お疲れさまでした。

○事務局 では、以上をもちまして、第2回目の選定委員会は終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

第3回守口市義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日 時 令和2年7月14日（火）午後2時00分

場 所 守口市役所 教育委員会会議室

出席者	委員長	森田 大輔	守口市教育委員会事務局	教育監
	副委員長	大野 友己	守口市立庭窪中学校	校長
	委員	棹本 達也	守口市教育委員会事務局	教育部 学校教育課長
	委員	中村 文俊	守口市教育センター	長
	委員	光宮 猛	守口市立大久保中学校	教頭
	委員	横山 淳		保護者
	委員	清水 智織		保護者

○事務局 お時間になりましたので、ただいまより、令和2年度第3回守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を始めさせていただきます。

初めに資料の確認をさせていただきます。

青のファイルに、とじておりますのが本日の次第。それから次のページに、前回第2回で「社会（公民）」まで決定をいただきましたものについて一覧でまとめたものをお示ししております。

それから、この赤い付箋を開けていただくと、前回同様、調査報告書の写しを挟んでいますが、そこに「理科」以降、最後の「道徳」まで追加で入れておりますのと、次に、上の付箋を開けていただいたら、諮問の写しを挟んであります。その次、もう1枚めくっていただきますと、こちらも前回同様、中学校の意見書を挟んでありますが、ここにも最後「道徳」までの意見、これを加えてファイリングしておりますので、御確認のほうをお願いいたします。

それと別に、ファイルの中に、本日は、令和2年度今年度使用の小学校の一覧と、裏面に同じく今年度中学校で使用しております一覧。それから、特筆事項を記入するものも、前回の続きの分入れておりますので、また御活用のほうをお願いいたします。

では、委員長のほうに、ここから進行をお譲りいたします。お願いいたします。

○委員長　それでは、改めましてこんにちは。

本日も大変御多用のところ、御参集賜りまして、誠にありがとうございます。ただいま説明ありましたように、本日は前回の続きということで、調査員がまとめました調査書を基にさせていただいたり、また、各お立場からの忌憚のない御意見を頂きながら、前回と同様、「最もふさわしいもの」「よりふさわしいもの」、そして「ふさわしいもの」の3つに区分をして、答申案として提出をしていきたいと思っておりますので、本日も活発な御意見頂けたらと思います。

地図

それでは、机上のほうに、2者の「地図」が用意されております。

事務局、説明をお願いいたします。

○事務局　失礼いたします。

それでは、「地図」につきまして、発行者合計2者でございます。

まず初めに、東京書籍でございます。

164ページを御覧ください。ジャンプの項目が、設けられており、それに関連するページが示されているというところで、有効に活用できるのではないかという意見や、また、7ページ、8ページを御覧ください。こちらには、現代社会のテーマでもあるSDGs、これを特集することで生徒の興味、関心をそそる内容を伝えているということ。それから最後に、186ページを御覧ください。こちらには資料の索引のページが設けられており、まさしく自学自習の助けになるのではないか、そのような意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

続いて、帝国書院、御覧ください。

こちらは、167ページ以降、御覧いただきますと、それぞれ、正式な国名が表記されていることで、こちらにも自学自習にも役立つのではないかという御意見。また、44ページの右下を御覧ください。地図活用という項目が設定されており、こちらにも補充、また、発展的な学習につなげやすいのではないかという御意見。最後に、御覧いただいておりますように、教科書のサイズが少し大きく設定をされていることで、生徒にとっても中が見やすく、詳細の取扱いがしやすいような工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。

「地図」2者については以上でございます。

○委員長　ありがとうございます。

そしたら、2者の地図を見ていただく時間を取りたいと思いますのでお願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長　ここからは御意見を頂戴してまいりたいと思います。

それでは、御意見いかがでしょうか。

お願いします。

○委員　帝国書院の26ページと、東京書籍の32ページのところ、見てもらえたらと思うのですが、帝国書院のほうが、この相関図の中にそれぞれの文化のポイントになるようなものを書いていて、大きな地図で探す前に、ここである程度の場所が探せるような工夫がなされているので、その部分がわかりやすいと感じます。

○委員長　ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員　帝国書院の57ページであったり、60ページですね。調査員の報告にも書いてあるんですが、同緯度、同縮尺の日本を世界のいろんな地域のところで表してあって、日本の大きさがアメリカと

比較できたりとか、同じぐらいの大阪と同じ同緯度の地域がわかって、大変興味深く見る事ができていいなと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

こちら2者ですので、比較いただかなくてもそれぞれの良さもいろいろ御意見頂ければ、教育委員会定例会当日、ここでの意見も非常に参考にされますので、ぜひお願いいたします。

お願いします。

○委員 資料のところのページで言いますと、帝国書院が167ページ、東京書籍、169ページのところが同じ内容になってるんですけども、見やすいのは帝国書院さんで、なぜかという、一行ずつモノトーンになってるんですよ。東京書籍はべたっという塗り方なので、横に追いかけるときに見やすいというのがあって、これは良さかなと思っています。あと、日本地図の見開きのところ、70ページでしょうか、見開きができてると、東京書籍は2ページの見開きみたいになってるので、そこはどうしても大きい小さいで違うのかなというのがあると、東京書籍は86ページですかね。やはり少し大きさが違う。

後、間違いを見つけたんですよ。79ページの沖縄、帝国書院のほうの79ページの見開きを返したところなんですけど、この、宮古島のところ、下のほうから2つ目のところ見ていただきますと、実は航路が書いてあるんですよ。航路、船の道がね。そして、多良間島に出ている道で、この横には多良間島ってあると思うんです。多良間から船が出るんですよ、これ。多良間と宮古島の赤い線追いかけてます。宮古島と書いてあって、港のマークがついて。実はこれ、橋の下通ってるんですけど、これは実はね、これが正解で。実はね、東京書籍の88ページには昔の航路が書いてあったんです。

○委員 こっちが間違えてるっていうこと。

○委員 東京書籍の88ページが間違ってるんですよ。88ページの下のところの航路ですね。島の上が走ってる。これ昔の航路なんです。

○委員 よく見つけましたね。

○委員 これ、宮古島に電話したんですよ、どっちが正しいかと自習しに来たときに、そこで、橋の下通るのは今正解ですよって。だから、多分ね、資料がやっぱり、帝国書院さすがやなっていう。そういうことです。これを取り上げるわけじゃないですけど、何かそういうもの。

○委員 これよく見つけたよね。これはよく見つけたなと思って。

○委員 思い出があるんで。

○委員 大きくないのに、小っちゃい掛図の。

○委員 G o T o キャンペーンの宮古島にも。

○委員 そっちがすごいと思ってしまった。

○委員 そうなのが多分、何かあるのではないかという話が。

○委員 帝国書院のほうが、より最新の情報で見て。それが出てるということですね。

○委員 そうですね。後、まあまあ大きいので見やすいというのと、さっき出た、技法ですけど、べたっつけられているんですけど、やはり地図は帝国書院みたいなので。だめなんだろうけど、先入観があると。

○委員長 お願いします。

○委員 まず、委員おっしゃったように大きさ違いますよね。東京書籍は資料集みたいになってるんですよ。見てましたら、例えば、最初のところで、SDGsの、ことが、ずっとありましたけど、東京書籍の6ページは、下のほうに歴史や公民でも活用しようとか書いてたり、前半、地図になる前にい

ろんな資料が出てると。何か資料集みたいになってるのが一つと、地図帳なので、やはり正確にその土地の地形だとか、そういうものが見れる、見やすいついていうのが大事なところだと思うと、帝国書院のほうがいいかなと。色も、色覚特性のある子でどうかなと思うんですけど、若干、東京書籍のほうが、明るさの差異が少ないっていう感じがしています。帝国書院のほうが鮮やかである。最初のほうを見ると、見開きの世界地図がどっちもあります。帝国書院は経線が5度ずつに時間が区切っている。東京書籍はもうちょっと幅がありますよね、実際には。それと、多分、この世界地図見たときに、国や場所を探すときに、よくありますよね。例えば、この帝国書院であればロシア連邦っていったら、大体その上のところにアルファベットが書いてあって、Lの例えば左側行ったら2とかね。よく地図で探すような、番号で探せるようなところが示してある。これ、ガイドブックとかに使うてあるやつだと思うんですけど、東京書籍のほうにはないんですね。

もう一つ、帝国書院で面白いなと思ったのは、32ページ。日本地図、世界、世界地図書いたときに、日本の地図やから日本が真ん中にあるって、世界があつてね。これ、国が変わったら地図が変わるんですよ。この帝国書院だけ、東側と日本の交流の歴史を、これ中国から見てるんですよ。中国側から見た日本でしょう。こういう視点はないんですよ、だから、こういう視点の地図は面白いなと思って、要は大陸側から日本を見てるっていう。これはなかなか面白いなって、子供たちの視点からかなと。後は、例えば、地図の見方で、縦向いたり、横向いたりというのは、どちらも同じなので、それは大差ないかなというふうには思いました。32ページは面白いなと。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほど委員の最新のデータということで、一応付け加えなのでんですけども、東京書籍の173ページに、人口の図があるんですけども、帝国書院は、171ページ。先ほどおっしゃられたように、こちら年代、帝国書院は2018年度ということで、調査報告にあると、今最新の数字を使っているということです。

それともう1点、実は世界の勉強をするということは、やっぱり中学生も、そこに向けて勉強するんですけども、やはり我々、守口に住んでるということで、ちょっと箇所を調べたんですけど、両方とも3か所なんですけども、実は、帝国書院の100ページに守口があつて、守口の特色、乾電池の絵が、帝国書院の100ページですね。世界の勉強しながらもやっぱり守口市の、当然そこへまた戻っていくというのは大事ななと思いましたので、述べさせていただきます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

今、お聞きしてましたら、やはり、帝国書院のほう非常に学習に活用していきやすいんじゃないかという御意見を頂きました。先ほど少し触れましたけども、地図については2者ですので、基本的にどちらも「最もふさわしい」というところで答申書の作成をさせていただきまして、また、今頂いた御意見と、また、調査員の調査報告書もございますので、それを持って、教育委員会定例会で最終御議論いただくということでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 はい。そしたら、どうもありがとうございました。

それでは、続いて「数学」に移らせていただきますので、準備をお願いいたします。

数学

(教科書配付)

○委員長　それでは、「数学」の説明をお願いします。

○事務局　失礼いたします。

「数学」については合計発行者7者ございます。

まず初めに東京書籍からでございます。

初めに、1年生の263ページを御覧ください。このように補充の問題というところで設定されており、難易度別で出題されておりますので、自分で生徒が振り返ることができる工夫がなされているということ。また、同じく1年生、245ページ以降を御覧ください。こちらには大切にしたい見方・考え方で事象を論理的に考察していくことができる、そのような意見も出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、大日本図書を御覧ください。

初めに、1年生の12ページ御覧ください。各学年全体を通じて、それぞれの章の導入が生徒にとって身近な内容でわかりやすい、そのような意見や、また次に、2年生の付録1ページ一番最後、付録の1ページを御覧ください。このように最後のまとめが、小さな冊子にすることができるようになっており、要は生徒が携帯できるような形で、こちらもとてもわかりやすいのではないかと、そのような意見が出ておりました。大日本図書については以上です。

次に、学校図書を御覧ください。

初めに、1年生165ページを御覧ください。学校図書では単元に入る前に振り返りの問題があり、生徒にとってもとてもわかりやすい工夫がなされているということや、同じく、1年生16ページ以降を御覧ください。16ページの左下に、どんなことがわかったかなということで、各学習内容の理解度が生徒自身で確認できるような工夫がされていると、そのような意見がございました。学校図書については以上でございます。

次に、教育出版を御覧ください。

こちら初めに、1年生の90ページ、91ページを御覧いただきますと、これも3学年全てに共通して言えることなのですが、教科書の横、右側にわかりやすくそれぞれの考え方をサポートするような欄が設けられているということ。また同じく、1年生275ページを御覧ください。こちら、数学の広場で数学の歴史が題材にされるなど、生徒の興味、関心から発展的な学習につながるような工夫がなされていると、そのような意見が出ておりました。教育出版については以上でございます。

次に、啓林館を御覧ください。

こちら初めに、1年生の196ページ、197ページを御覧いただきますと、それぞれの小単元にもQRコードが用いられております。ページの下側になりますけれども、こういったコンテンツがあり、とても全般的に充実がしているということや、次に、3年生、の198ページ御覧いただきますと、学びを確かめようというコーナーが設定されており、確認問題で振り返りのページが記載されている、このような意見も出ておりました。啓林館については以上でございます。

それでは次に、数研出版を御覧ください。

こちらは、全学年共通ですが、それぞれ一番後ろ、裏表紙になりますが、一番後ろに生徒自身が自己評価ができる添付表で自身の学習の様子を振り返ることができるような工夫。また、別冊になりますけれども、こちらの探求ノート、これを有効に活用することで、生徒の学力の定着・向上につながるのではないかと、そういった意見も出ております。また最後に、なりますが、3年生93から95ページ開けていただきますと、章末に確認問題、問題A、問題Bという構成で、問題の構成が大変わかりやすくなっていると、そのような意見も出ておりました。数研出版については以上でございます。

最後に、日本文教出版を御覧ください。

1年生258ページ、259ページを御覧いただきますと、数学を仕事に生かしている方の話を知る

ことで、生徒自身の今後の学習意欲につながるのではないかという意見や、同じく、1年生の301ページから308ページ御覧いただきますと、こちらは全学年共通にもなりますが、対話シートというのが用意されており、生徒同士、ペアやグループ学習を行いやすい工夫がなされていると、そのような意見が出ておりました。

「数学」7者については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここからまた教科書見ていただく時間を取らせていただきます。7者ございますので、10分程度取りますので見て頂けたらと思います。よろしくお願いします。

(教科書閲覧)

○委員長 ここからは御意見頂きたいと思います。

それでは、御意見いかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員 本市の視点とするデジタル資料等の添付について、この大阪府の、資料を見ますと、数の23ページなんですけど、啓林館が149と、数研が164と、他者と比べまして圧倒的に多いところがあります。例えば、どういうのが載ってるのかと申し上げますと、啓林館の1年生の160、161なんですけども、これ作図の勉強なんですけども、コンパスの、実際そこを書く動画が出てるといので、結構、わかりやすいかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 1年生のそれぞれ最初に習う正の数や負の数、そこのところを小学校から上がった子供たちがどんなふうに学ぶかなという視点で見ました。そのときに、数研出版の1年生の26ページ、27ページを見ていただきますと、どの教科書も、この正の数、負の数を数直線で表したときに、色でわかるように、工夫はどの教科書もされてるんですけども、この数研出版は、その数直線に対応して文章表記のところにも、例えば、26ページのところでしたら青線で正の方向に2進むと。それが数直線と対応するようになっていて。正の数は青で、負の数は次27ページ、オレンジ色で示して、どちらに進むというふうに、初めて小学校からこうやって上がってきて、負の数を習うときに、大変、文章と数直線が一体しててわかりやすいなというふうに感じました。

また、ちょっと違う視点にはなりますけれども、これは啓林館の同じく、この正の数、負の数の入り口のところを見てみますと、日本一高い山、富士山のことが載ってまして、こういったところに出てくる正の数、負の数、気温のことであったりとか、こういった具体的な事柄から実際に正の数、負の数が学べるように工夫されてるなというふうに。

他の教科書も同じように、1年生が学びやすいような工夫はされてるなというところですが、具体的に見つけたところを申し上げました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほどの、この選定資料のところで見えたんですけど、数研出版がトータル1,036ページ。そのうち、別冊になっているのが152ページ。3年分ですね。それを差し引くと884ページが教科書のページになるのだけど、非常に量的に多いなというのがあるって、この分冊になっているものも中

身としては面白いんだけど、さあ、この分冊は家庭学習の課題になってしまうじゃないかなっていう、危惧が一つあるなど。いいものなんだけど、取り扱ってる量が非常に多いっていうのが気にはなるかなっていう気がします。そして、観点の箇所数も各教科書の、非常に特徴が出てると。デジタルコンテンツの箇所数は数研出版が断然多いですね。だから、そういう機器をうまく活用できれば、こういうことを有効に使えるんだらうなど。逆に、例えば、対話的な学びにつながる箇所数っていうのが、学校図書が多いんですけど、でも学校図書の教科書を見てみたら、教科書のいろんな説明のところを、本来先生なりが、あるいは、子供たちなりが言ってることを、子供言っているだけのことなので、余り対話的なものにはまらないのではというので、どちらかという、生活に密着した場面が出てくるところで、数研出版は非常に少ないんですけどね。非常に特徴があって、守口の子供にとったらどうなのだろうと、この見えるとこかなと思います。だから、教出とか、その辺も面白かったんかなと思ってるんですけど。啓林館とかね。啓林館も振り返りのやつが、これもややこしいのですが、縦横で、裏面を見たら横になってるのですが、要はその学年でやった単元の振り返りが一つの表にまとめられてるので、これは使いにくいかなと思ってますね。数研出版のやってることを、少し内容は軽くしたけど、1冊の分冊にまとめるみたいな感じですので。そういう啓林館の面白さなのかなと

○委員長　ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員　各者見てて、一番初め数の説明のところ、2種類特徴がありまして、大日本図書の14ページ、教育出版の16ページのところで、自然数の定義のところなんですけど、単なる記憶じゃなくて、自然数というのが物の個数や順番を数えるときに使う数であるという、この数学的な概念というのをきっちり押さえて、この2つの教科書が使われているので、その部分が、数学というのを意識させるにはいいかなと思います。また、中学生ということを考えて、そこのところを見ただけで表示してるのが啓林館の13ページ、数研出版の18ページ、日本文教出版の18ページで、この3者は、この整数、負の数、負の整数と正の整数。正の整数が自然数ですよというのを図示で、見てわかる形で表してくれてるので、導入として使うには、こちらのほうが進みやすいかというのを感じました。この数研出版が、内容を見てると自学自習をテーマに作られた教科書かなと。自分で学ぶことを考えると、すごい取りかかりやすいんですけど、同じような分け方の難易度別のほうで配慮してもらってる中だと、啓林館の分が考えるところを全部色で囲ってて、そこのポイントを押さえたらいいよっていうのが、これも見た目わかるような工夫がなされてるように感じます。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

今、教える側の使いやすさとか、少しそういう意見とか、逆に、使われる生徒さん、お子さんとかが使うというところで何か。これならちょっと勉強しやすそうだなとか。例えば、家で使うときとか。

○委員　ちょっと聞いたんです、子供にね。テスト終わったところだったんで、それも含めてどうやったんみたいなことを言ってて。数学っていうのは、どういう授業してるのとか言ってたら、何か結構プリントが多いって言ってましたね。教科書よりもすごい、これ家じゃないので、教科書を使うよりもプリントで勉強してるのがすごく多いって言われてたんで。プリントみたいな感じで。でもやっぱり、まとめちゃうんでね、先生がもうプリントにしてまとめて、飲み込みやすいようにするの、ですね。だから、先生たちが教えやすい教科書でもいいのかなっていうのは、私は思ったりはするんですけど。でもやっぱり啓林館はすごいいいなって、思いました。

○委員長　啓林館。

○委員　はい。委員がさっき言った、数研出版は、間に合うかみたいな、子供たちがみたいな感じは

すごく。啓林館を見たときにもう、見やすいつてすごい思って、子供も見やすいのかなって。ちょっと色をつけて分けてるって、大事なところはつけるとかいうのがあったので、一応それは感じました。

○委員長 確かに、生徒さんにとって、家で使う場合、あれどうやったかなというときに、わかりやすく、見やすくまとめられてるのが一番使いやすいですね。

○委員 はち切れんばかり入れてるもので、教科書を。私も啓林館で。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 デジタルコンテンツのところ、もう少し見てみました。御意見あったとおり、G I G Aスクールですか、意識されて書かれてる、増えてきてるなっていうのと。ただ、よくある話で、用意するだけ、中身がやっぱり大事なことだと思ってまして、今、少し見ただけなんですけども、例えば、大日本図書の65ページ、ちょっと名前が珍しかったので、少しQR探ってみたんですけど、師子鹿桜さんっていう、これボーイングの副操縦士をやられてる方で、これすごい人なんですけど、掲載されています。この人のページが、実は、QRから飛んで見られて、ここにはこれだけしか書いてないんですけども、いろんな体験談などが書いてあって。数学に何の関係あるのかなと思ったら、最後の最後で、この飛行機がロスに着くまで何時間かかるか計算しなさいっていうこと、書いてあったので。数学なんですけども、この人たちがどういうふうなことを日ごろやられてるかっていうのが、スマホでも見られるし、今度頂けるであろうiPadでも当然見られるであろうと。ただ、静止画。静止画っていうか文章だとね。

ところが、こっちの啓林館は185ページの展開図のところですね。ややこしいなって、うちの子供勉強わからなくなるのではと思いました。だから動画で動いていって、形を最後開いていくとかっていうのができるみたいなことが、10秒ちょっとぐらいであって。これを視覚で動かされると、わかると思うんですよね。子どもらはゲームをやってるから、それはわかると思うんですよ。だから、動画で動いてるっていうのは、一つポイントだなと。

私が探した中では、数研出版の187ページの空間図形っていうのがあって、ここのQRにいくと、これ正しいか、ちょっとどうかわからないんですけど、クイズになっていて、脳トレみたいなゲームが中であって、ぼんと押すと、何足す何が、ぼんと押したら答えが出て、ずっと繰り返していけるっていうので、多分、今の子供たちでは、こんなことめっちゃ好きじゃないかなっていう気がしてまして。ちょっと数学の中身については、僕も余り語れないので、こういう将来的なG I G A、将来っていうか、もう来年ですよ。G I G Aスクールのことを意識したことが多いかなと思ってまして。

○委員 先週G I G Aスクールのお話を聞くタイミングがありまして、経産省の産業教育課の室長、課長さんですね。浅野大介さんっていう、もしかして私の勘違いかもしれないですけども、G I G Aスクール仕掛けた人で、国から予算取ってきた人、1兆円取ってきた張本人って自分で言っていましたけど。その人の話をやっぱり聞いていると、教科書がね、もうこれからはデジタルの時代になって、もう、果たしてランドセルは必要なのか、個別の授業をしていくっていうことであって、単元自体を、1年間で授業終わるっていうのはもう罪やと。その子に合わせた授業を、9年なり10年かけてやるっていうのが本来であって。すぐに、いわゆる僕らでもググるとか、そういうようなことをやるができることが、これからの子供たちには必要なのではないかというようなことを、延々と話されてて、もっと中身がものすごいと言っておられたんですけど、必要だと、そんなこと言われてたので。来年、守口市でもiPadが入るんですけども、この教科書4年間続くのですよね。だからその辺のところの国のスピードと、町行政っていうのと、文科省と、経産省との取り組みがあると思うんですけども、そのスピードっていうのが何か少し違うので、こういうようなG I G Aスクールに使えるようなコンテンツがこれから増えていくだろうし、もっと中身が問われるのではないかと思います。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

それでは、たくさん御意見いただきましたので、まとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

まず、今、頂いた意見では、「最もふさわしい」については、啓林館、それと数研出版、この2者。続いて、「よりふさわしい」が大日本図書、学校図書、それと教育出版。最後、「ふさわしい」が東京書籍、日本文教出版というふうに、今まとめさせていただいたんですが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

よろしいでしょうか。そしたら、今のとおりで答申案とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、続いて「理科」ですね。準備をお願いします。

理科

(教科書配付)

○委員長 そしたら、「理科」の説明、事務局をお願いします。

○事務局 失礼いたします。

「理科」につきましては、合計5つ発行者ございます。

まず、東京書籍からでございます。

初めに、1年生の108ページを御覧ください。説明しようという項目により文章表現を求める項目が多く、生徒の表現力が高まると、そのような意見が出ておりました。また同じく、1年生128ページを御覧ください。教科書の下にそれぞれ観点が示されおり、生徒自身が学習しているところが、今どこなのがわかりやすい工夫がなされていると、そのような意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、大日本図書を御覧ください。

初めに、3年生の226ページ、227ページを御覧ください。ここでは、小学生のときに学習した内容を見開き2ページで押さえた上で、そこから新たな学習内容に入っていくことができるような工夫がなされているという点。また次に、1年生の129ページを御覧ください。ここでは、生徒同士が話し合い活動を通して問題解決の学習ができるような工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。大日本図書については以上でございます。

次に、学校図書を御覧ください。

学校図書の、初めに、1年生の23ページ右上を御覧いただきますと、毎時間の目標や考え方、またそれに合わせて、次に27ページの右下を御覧いただくと、それぞれ章末にはまとめが書いてあり、わかりやすい構成になっているという意見。また同じく、1年生の98ページ以降御覧いただきますと、一つの実験、観察のページが大変多く、レポート形式でわかりやすく表示がされている。また、注意点については、ストップという表示が目立つように示されている工夫がある、そのような意見が出ておりました。学校図書については以上でございます。

次に、教育出版を御覧ください。

ここでは初めに、2年生の60ページを御覧いただきますと、学んでいくことが、学習する前に明示されているという工夫や、次に、1年生の10ページから25ページの間、初めに観察を通して観点や基準を示した上で、その後のページにかけて生徒同士が話し合いを進める中で分類をしていくという、そのような構成がわかりやすいのではないかという意見が出ておりました。教育出版については以上でございます。

最後に、啓林館を御覧ください。

初めに、1年生の17ページを御覧いただきますと、学びの見通し、右側ですけれども、学びの見通しを示し、学ぶ前にトライを入れて生徒が目標設定が行いやすいような工夫がされているという点。また、啓林館については、全学年の最後、一番最後にワーク集が立体となった形となっており、これらについても生徒が自学自習に活用しやすいような工夫がなされていると、そのような意見が出ておりました。

「理科」5者については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここから教科書を見ていただく時間取らせていただきます。よろしくお願いします。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは、ここから御意見のほう頂戴したいと思います。

それでは、御意見いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 2点ありまして、1点目が理科室の使い方というのが全教科書と取り上げられておりまして、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版は教科書の一番初めのところにまとめて書かれてるんですが、啓林館だけ単元の化学分野に入ってくるところの前にそれを触れている形で、実際、実験等で危険、安全管理の観点からいくと、要するに危険の直前に学ばせたほうが入りやすいかなと。そこ、教科書の構成の、これは啓林館がきれいにできてるなと感じました。

もう1点が、生物の分類っていうところを調べていたんですが、ここが東京書籍さんと啓林館さんのほうで、啓林館46ページ、東京書籍はこの、多分48、49から始まっていくんですが、他者は爬虫類とか、学習のところから入って分類なんですが、この2者だけ、観察を入れた中で、観察の細かい特徴から分類に移行するという形で系統的にまとめられてるかなと感じました。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 調査事項のところにもあるんですけども、やはり啓林館のほうが、見開き構成で、文章が全部真ん中に寄っているということで、大変読みやすいというふうな調査員の成果があります。それと、例えば、1年の17ページ、学ぶ前にトライ、学んだ後にリトライというので、やはり変容を子供たちに求めていると。これ、教育出版も学ぶ前にと、学んだ後にとというのがあるんですけども、これは大事なかなというふうに思います。

それともう1点、啓林館、やはり理科も身近な物というふうに感じないと、というふうに思っている中で、啓林館では、52ページですね。1年生の。大阪湾にいる生き物ですね。これってこんなにいるんだっていうことを、やはり興味持てるかなというふうに思いました。

それと、東京書籍なんですけども、これも調査事項のところ教科書の下側に、観点、今問題発見してますよとか、今分析解釈ですよとか、こういうものがあり、子供たちが今、自分がどこを学習しているのかがわかりやすいという事が書かれていました。

これも追加なんですけど、例えば、1年生の71ページ、ここに本の紹介。参考図書。植物の勉強をしていく中で、最後に、例えば樹木博士になろうとか、1年生の71ページですけど、こういうものが、やはり子供たち、すごく身近なものと考えられるんじゃないかなというふうに思います。

最後にもう1点、1年生の134ページなんですけども、ここに、葉は結晶が命ということで、自分たちが学んでいることが世の中にどれだけ役に立ってるかということで、少し内容は高度なんですけども、理科を専門とする先生方としては、興味深く指導ができるんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員　全ての教科書の最初のページに、学習の進め方であったりとか、探求の進め方っていうことで、子供たちの主体的に学習を進めるに当たっての進め方がどの教科書も書かれていて、それぞれの教科書工夫されてるなというふうに考えました。

中でも、やっぱり少し事務局、それから今、委員長の発言にもあったんですけども。私は啓林館の、学ぶ前にトライというようなところ、先ほど紹介があったので読んでみてたんですけども、すごく学習の興味をそそられる。例えば、2年生の71ページであったり、1年生であれば、先ほど紹介があった17ページ、3年生であれば47ページ。それぞれの学習の前に、これ2年生だったら、天気のことわざは本当に当たるのというようなことが書かれていて、実際、これ天気を勉強するときすごい興味を持てると思った。3年生だったら、こうやって星の勉強をする前に、昔の人たちは、こうやって航海するのに何を目標してやっていくのかなというようなお話があったところで学習に入っていくと。大変自分たちの身近な生活と結び付けて学習できるので面白いなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員　化学のところで、若干、学年、1分野、2分野というやり方をしてないので、元素の周期表って、順番になるんです。あれを見てみたら面白いんですけど。啓林館、いや、その教科の本質とか、その点で考えたら、啓林館だけが、要は元素が、分子になったらどんなものになるかとか、そういうもの、本物のものを元素記号と写真と一緒に見せてて、後は、その元素がどんなところに使われているかっていう、利用されているものを写真でずっと載せているのですね。東京書籍は、その利用されてるものも若干違う。そういう工夫がされてないのは学校図書。表だけ出てるから。教育出版と大日本図書は大体同じようなものを入れている。東京書籍と教育出版、水素見たらロケットの水素エネルギーのところが入ってたりとか、でも啓林館だけ際立ってる。だから、理科とか、根本的なところから言ったら、目に見て、金属はみんな金属の名簿みたいになってるけど、こっちのほうが良いのではという気はする。元素とは何かっていうのでいくと、なかなか面白いと見てるんですけど。後、この選定資料で見ても、特筆すべきところっていうのが、啓林館、例えば、先ほどの最初の課題を出して、後振り返るんであろうことが出てましたけど、問題を見出し、観察、実験を計画する学習活動について取り扱ってる箇所数が一番多い。そういう意味では、教科書の編集のところのポイントかなというふうに思いました。

後は、扱われてる1分野、2分野の領域はそう変わらないので、こういうところが特筆されてるかな。後、探求活動が啓林館は多い。後、環境保全とか防災も取り扱ってる箇所が多くて、多岐にわたってるというところがバランスよく取れてるんじゃないのかなと思ってました。

○委員長　ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員　デジタルコンテンツばかりが書いてるんですけど、理科、化学こそデジタルコンテンツであればいいかなと思って、今、数学も飛んでなくて目次のところにみんなまとめてあるみたいな感じになって、そのデジタルコンテンツあるかと思って、どこか書いてるのかって、書いてなかったんで、一生懸命探したら結構、実はありまして。例えば、私も啓林館が一番だなと思ってます。見やすし、

いいなと思って、啓林館はつないでみますと、この鳥がいて、鳥の声そのまま聞こえるとか。東京書籍は無脊椎、アオリイカが泳いでいるところがあって、解剖は今できないので、解剖をしてあるところ、こういうような感じでやってるとか、これこそまた、イラストのこう、あるかなと思って。見やすいとか、見て楽しいなっていう。教える側ではないので。どうしてもそっちの観点になっちゃうんですけど、啓林館は一番見て興味深い、構成かなというふうに思いました。

○委員長 ありがとうございます。

そしたら、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。そしたら、今まででいただいた意見でちょっとまとめさせていただきます。「最もふさわしいもの」は、今も意見ございました啓林館、東京書籍の2者でよろしいでしょうか。続いて「よりふさわしいもの」は教育出版、そして最後「ふさわしいもの」として大日本図書、学校図書の2者ということでまとめさせていただきますよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございました。

そしたら、1時間半経ちましたので、35分まで休憩を取らせていただきます。

(休憩)

音楽（一般）

○委員長 それでは、続いて「音楽」の、まずは一般ですね。

そしたら、事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 失礼します。

「音楽（一般）」については2者ございます。

初めに、教育出版を御覧ください。

1年生の教科書13ページ母音の発音や、また、19ページの鼻濁音など、合唱活動をよりよく取り組めるための手だてについて、説明がわかりやすく、また充実して表現されているという点や、また、33ページを御覧ください、同じ1年生、33ページ開いていただきますと、ワークシートの形になっており、その内容がよりわかりやすく、生徒にとっても取り組みやすい工夫がなされていると、そのような意見が出ておりました。教育出版については以上でございます。

次の、教育芸術社を御覧ください。

こちらにも初めに、1年生の39ページを御覧いただきますと、鑑賞の分野のページ、詳しく説明があることによって、楽譜の内容だけでなく時代背景など多角的に学べる工夫がなされているという点や、同じく36ページ、37ページを開けていただきますと、自分たちで生徒が合唱の表現を工夫するためのポイントや調べ方がわかりやすくまとめられているというような、そのような意見が出ておりました。

以上2者については、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ここからは教科書を見ていただく時間を若干取りますのでお願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 ここから御意見を頂きたいと思っております。

それでは、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 それぞれの教科書に共通して載っている教材を見比べながら見てみたんですけども、例えば、教育芸術社のほうの18ページ、19ページと、それから、教育出版のほうの14ページ、15ページ、こちらに「夏の思い出」がどちらも掲載されているんですが、教育芸術社のほうは扱いが18ページか

ら21ページにまたがって掲載されています。こちらのほうが、この歌詞に込められている、こういった作詞者の言葉であったりとか、また、実際の尾瀬の景色であったりとか、そういったことが写真でも掲載されていて、こういった情景を思い浮かべながら、また、こういった作った方の思いをはせながら歌うことができているなと思いついて見ました。また、全体的に教科書の色がすごく明るいので見やすいというイメージも持ちました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 私も同じ歌、今のところを調べてまして、教育出版、2・3上の16ページと、教育芸術社2・3下の20のところで、同じ歌を取り扱ってるんですが、教育芸術社のほうは実際の作詞家、作曲家のほうも同じページに載せて確認できるようになってるんですが、教育出版社のほうは後にまとめて各曲の作曲者とかが表記されてることと、歌い方の注意のところが、教育出版さんは感情込めてと一言で書いてるんですが、教育芸術社のほうは歌詞の内容を理解し、拍子に強弱をつけながら表現を工夫しましょうっていうふうに細かく指示が書かれてるので、実際歌うときにわかりやすいかなと感じました。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 調査事項のところに、教育芸術社、生徒が好んで取り組みやすい歌唱曲や、鑑賞曲が取り上げられていると。歌うことが楽しいっていうことがやっぱり一番大事なかなというふうに考えるわけで、例えば、教育芸術社は日本の歌として「涙そうそう」「上を向いて歩こう」「故郷」などが取り上げられております。

一方、教育出版のほうは、例えば、2・3年下の24ページに、CMソングを創作してみようとか、64ページにはコンピューターと化学と音楽を絡めて記述されています。

少し戻るんですけども、教育芸術社は、2・3年下の、54ページに日本のお祭り、56ページには世界のお祭りということで、その辺バランスよく書かれてるなというふうに感じました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 この選定資料で、先ほど、委員も言われたように、合唱、歌唱曲がある程度扱われている教科書のほうが、いろんな曲が歌えるので良いだろうということと言うと、歌唱に関する楽曲は、楽曲のページ数は教育芸術社のほうが多いんですね。1年から全てにおいて。全体を見てみても、たくさん歌が入っているなという感じがするので、それは一つ、教育芸術社のほうが子供たちにとってもいいのではないかな。扱われてる曲も若干違いますけど、割に身近な曲も、または、昔からの伝統曲とか、そういうものをしっかり取り扱われてるなと思います。

後、国歌は、教育出版は全部さざれ石の写真。教育芸術社はオリンピックが2つ。オリンピックとワールドカップと、パラリンピックで使われてるよってところがあるので、よりわかりやすいのかなと。さざれ石では1回だけやったですね、3年、3つとも書いてますので。というようなところの違いがあるかなというふうに。楽しい教科書という、やはり教育芸術社のほうが分があるかなと。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

今回もちょっと2者ですので、ちょっと選定委員の意見として上げておきたいことが、もしあれば、上げていただくということで結構かと思うんですが。

特によろしいでしょうか。そしたら、この後、同じ2者で、また「器楽」がございまして、今少し言えなかったところなど、そちらでもまたお気づきであればお願いできたらと思います。

それでは、教科書の準備をお願いします。

音楽（器楽）

（教科書配付）

○委員長　それでは、事務局、説明をお願いします。

○事務局　失礼します。

「器楽」も2者でございます。

初めに、教育出版を御覧ください。

まず、20ページ開いていただきますと、全ての楽曲に目標が付けられているため、生徒にとってもやるべきことが明確に示されているという点。同じく、26ページには、楽器の比較から生徒同士の話し合い活動を通じて、生徒が主体的に、考えるような内容の扱いがあると、そのような点が上げられておりました。教育出版については以上でございます。

次に、教育芸術社でございますが、まず、47ページを御覧いただけますでしょうか。ここでは、楽器の紹介だけでなく、奏法も記載されており、生徒の興味、関心を引き立てる内容が示されているという点。また、39ページや44ページには、発展問題の記載があり、その量についても適切である、そのような意見も出ておりました。

「音楽（器楽）」につきましては、以上でございます。

○委員長　ありがとうございます。

では、少し時間取りますので教科書を御覧ください。

（教科書閲覧）

○委員長　そうしましたら、お時間となりましたので、ここからは御意見を頂けたらと思います。

いかがでしょうか。

一般と器楽で違いがあるんですが、先ほど出てる意見が重複しても構いませんので、器楽は器楽ということだけで言っていたらと思います。

お願いします。

○委員　先ほど一般のほうで出た意見と同様ですけれども、教育芸術社のほうが生徒にとって親しみやすい曲が多いのかなというのは感じました。また見栄えのことは、先ほども同様ですけれども、明るくて見やすいなどは感じているところです。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

これ、生徒さんから見て、ちょっと教科書を魅力的感じるの、そのあたりどんな感じですかね。

○委員　何か違いがわからないとこで。

○委員　そうなんですよね。リコーダーとかで持ってていいっていうのは、抵抗なく見たりはする。太鼓とか、こういうのって・・・。

○委員　そう、和太鼓のたたき方教えられても。

○委員　そうですね。リコーダーとかそういうのとかは、合奏とかに出てくると。使うと、やっぱりこれ絶対使わないじゃないですか。ギターとかも。

○委員　ギターはね。多分、このコードの弾き方って。

○委員 中学なんですね。私、高校のイメージがすごくあったので、すごいそれを今見てびっくりして、ギターなんだと。

○委員 教育芸術社のほうがギターのコードは見やすいかな。

○委員 見るのはね。

○委員 ただ、QRへ行くと、音楽が聴ける。音楽は画像もあって、音もやっぱりすごくいいと思うし。ただ、あれ、よく考えたらヘッドセットつけないといけませんね、イヤホンか何かね。

○委員長 これに使う。そうですね。

○委員 だから、先生はみんな、全員うまいわけではないので、またギターも上手いわけではないので、ちゃんとした音源を家に帰っても聴けるようにするのは、音楽こそいいんじゃないかなと思いました。

○委員長 そうですね。

お願いします。

○委員 資料の量では古典で楽器の箏とか、それを使わないといけないと思うのですが、これ、器楽の教科書なんで、編集で行くと、教育芸術社のほうが主たる、学校にある器楽の道具から言うと、ソプラノ、アルトリコーダー、それからギター、この辺はあるんですね。大体、そのソプラノからアルトリコーダーで、次、ギターになってるんですよ。

教育出版は、やっぱり、リコーダーはそれなりに入れてるけども、後はほぼほぼ、篠笛から始まって古典的な三味線、最後、箏に行って、打楽器なんかも。ギターはコードのみ載ってるということなので、非常に古典的な内容に集中してるっていう感じがする。子供から見たら、先ほどの、太鼓や、篠笛なんか、そうなる。これ見てたら、篠笛って、えっと驚きます。ギターは、ギター載ってるでしょう。そうやってきたときに、いや、子供が見たらやっぱり教育芸術社のほうが使いやすいのかなというふうに。箏も教育芸術社のほうが丁寧な弾き方とか、その辺は載ってるなというのは両者にあって。細かな、リコーダーのところの笛の吹き方とか、タンギングの練習のところが、こういうの丁寧書いてあるので、子供たちが扱っている、授業で一番多く扱われる楽器を捉えてる。だから、子供らの授業の実態に応じてやっってるのが教育芸術社かなというふうに思います。

○委員長 他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 調査員の報告にもあるんですけど、教育出版のほうは全ての楽曲に目標が付けられていると。こういうことを学んだよということで、楽器演奏にしても一つずつ付いてるというのが、これは子供たちにとっては、学ぶ目的というのがはっきりするかなというふうに。それは教える教員にとっても明確にできるかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。

そしたら、ありがとうございました。それでは、今、頂きました意見と共に、この両者共に「最もふさわしい」というところで、答申案とさせていただきます。

それでは、続いて「美術」になります。

美術

(教科書配付)

○委員長 それでは、事務局、説明をお願いします。

○事務局 失礼いたします。

「美術」については、発行者3者ございます。

初めに、開隆堂出版を御覧ください。

まず、2・3年の38ページを御覧いただきますと、和の伝統技術からジャポニズムの時代の西洋と現代アニメーションなどの日本文化につながる巧みな構成となっているという点や、また、1年の41ページを御覧いただきますと、生徒同士が話し合うなどの言語活動の例が具体的に示されているという、そのような工夫もございました。最後に、それぞれ、これは全体的にですけれども、各ページの上部に、それぞれにQRコードがあり、絵画のページではリンク先に美術館が多く取り上げられるなど、各学習に関連するページでは、参考作品や資料にアクセスできると、そのような工夫がなされているという意見がございました。開隆堂出版については以上でございます。

次に、光村図書を御覧ください。

初めに、1年生の24ページなどになりますけれども、みんなの工夫として、中学生の実際の制作過程が掲載されており、制作の取り組みのヒントとなるような工夫や、みんなの工夫のコーナーに加えて、例えば、2・3年生の37ページは、このページが紙質を変えての学習アプローチなど、3年間を通して生徒が興味を持って学習できる内容になっているという点。また、最後に、1年生の36ページなどになりますが、こちらも各ページ下の部分にQRコードが掲載されることで、鑑賞の導入に使うことがしやすいなどの意見が出ておりました。光村図書については以上でございます。

最後に、日本文教出版の1年生58ページを御覧ください。このページ以降には学びを支える資料がとても見やすくまとまっており、3年間で扱いたい題材が充実していることや、2・3年生の下の33ページなど、こちらも生徒がグループ学習する様子が掲載されるなど、子供たちの言語活動につながるような工夫がなされているという、そのような意見が出ておりました。

「美術」3者については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここからお時間を取りますので、教科書を見ていただきますようお願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは、御意見を頂いていきたいと思えます。

いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 失礼します。

先ほど来から、ICTのことを少し触れたいんですけども、例えば、光村図書2・3年生の78ページなんですけど、写真や映像を撮影するというのでタブレット端末が出てきます。次のページ、1枚めくっていただいて80ページにも、映像で広がる世界ということで、今後導入するタブレット端末について触れてるのがいいかなというふうに思います。もうちょっと戻っていただいて、76、77を見ていただくと、思考ツールということで、これもすごく子供たちにとっては勉強になるかなというふうに思います。それともう1点、ちょっとお伝えしたいのがあります。光村図書1年生の表紙裏に身近なものということで、やはり、こういう身近な美しさに触れてもらうというのが大事なかなというふうに思いますし、実は、日本文教出版の2・3年の上の7ページのところにも、こういうところはあるんですけども、絵を描くのが苦手なんだけど、やはり子供たち多感な時期ですので、こういう、やっぱり、それぞれの作品の良さがあるということで、1年生の最初の出会いできちんと押さえてもらえたらいいかなというふうに思いました。

少し長くなりましたけど、以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他。いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 それぞれの全体的なバランスなんですが、開隆堂出版と比べて、光村図書、日本文教出版が実際に足を運んで見にいけるような題材を、すごく多く取り扱ってるので、への興味、関心っていうところの点では、この2者のほうが子供には身近に感じて学べるかなと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 どれも見てて楽しいなと思いながら見ていて、感想になってしまいますけども、例えば、開隆堂出版の最初、1年生の開いたところでは、「学びの地図」ということで、それぞれ作品の出会いであったり、文化を学ぶであったり、いろんな視点で美術を学ぶことができる視点が載っており、一番最後の67ページには、建築物からいろんな、また美しさを学ぶことが写真を通して見ることができるというところがいいなと思いました。

次、日本文教出版は、それぞれの表紙の写真、この建築物であったり、表紙にまず引かれました。中を開いてみますと、必ず見開きで、こういった建築物の美しさであったりとかっていうところが、一番最初に開くページに、どの学年のものも見開でそれぞれ工夫がされていて、美術との出会いを興味、関心を持ってできるように工夫にされてるなというふうに思いました。

最後に、光村図書ですけれども、これは先ほど事務局の説明にもあった、1年生の24ページの紹介がありましたけれども、このみんなの工夫のページですね。私もこうやって絵を描くときにどこを切り取って絵を描くのかなと。これ実際に、生徒さんの切り取ったところをこうやって作品になっていく様子が切り取られていて、あ、こういうふうな視点で見れば絵が描けるのかっていうふうに、これは、すごく絵を描くのが苦手な子供たちも一つヒントになっていいんじゃないかなと。どの教科書もいいなと思いながら、今の子供の視点に立ったときに、先ほどお話にもあったように、一番最初に子供の見つけた、美しさの発見が載っているという点では、この光村図書の教科書が一つまた工夫があっというふうを感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 3者あるんですけど、日本文教出版だけが3分冊になって、後の2者は2・3年で、要は鑑賞の内容と表現の内容の、まとめて2・3年のところに入れてるんですけど、日本文教出版はどちらかというと2・3年の下については、割に鑑賞領域で、大きな写真がたくさんあったり、表現領域が余りなくて、インパクトのある写真をたくさん使っていて、先ほど出ましたけど、表紙めくったら見開きでサクラダ・ファミリアが出ていたりとか、それから、2・3年の上のところもゴッホの作品が出てくるんですけど、それぞれ、それ以外にも「ゲルニカ」があったり、なかなか折り込みの写真がすごく大きくてインパクトがあっ。光村図書なんか細かい工芸作品が載っているのだけど、子供が見てインパクトのあるものっていうのは上手に使ってるなという印象があります。分冊の2・3年上が、これが割に表現活動がたくさん書いてるので、表現の領域についてはこれ十分見れる。教科書の使い勝手としては、表現活動するとき2・3年の上を使って、2・3年の下は鑑賞活動やって、1年生は基本的なことが載っているの、これは1年生の段階で使う基礎。

もう一つは開隆堂出版だけが9年間の図工、小学校の図画工作から美術に行く、その流れを光村図書と日本文教出版はうまく書いてありました。日本文教出版のほうは、6ページ、7ページのところにずっとつながってあるね。小学校の図画工作から出会いがあって、表現活動中心の2・3年上があって、

下がありますよ。自分に向き合う、中学校3年生のというつながりがあって、開隆堂出版も美術と図画工作ってどう違うかみたいなことの取り扱いがありました。光村図書はどう違うのみたいな形で入るので、この2者の捉え方がいかなというふうには見てて思いました。

「ゲルニカ」の写真も、光村図書も日本文教出版も載ってるんだけど、あえて、日本文教出版はどれぐらいの大きさかということで、子供や人間のシルエットを入れてるところがあったりとか、非常に大きくインパクトがあるような使い方を日文してるなと思います。先ほどのデジタルコンテンツの話でいくと、非常に美術でも鑑賞領域で、この教科書だけじゃなくて、QRコードを読み取って、いろんな鑑賞作品がデジタルで見れたら、それは非常にいい学習ができるので、その辺はどちらも入ってるので、実際見てないのですが、DVDなんか高いですね。非常に高価なので本当は欲しいんだけど、そういうものがデジタル教科書になって、そういうDVDの鑑賞作品なんていうのがあれば、だから、そういうQRコードがついてて、それが見れるというのは非常にいいと思います。道徳との関連は日文も光村も道徳作ってるので、そこは意識してるのかなというふうに思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 今、お話があったとおり、日本文教出版の見開きの非常に強いインパクトがあって、僕も知らなかったんですけど、浪裏の、このよくあるこの絵も原寸大なんですよね。こんな小さかったんですね。もっと大きいものと思ってたんですけど。美術の2・3年で、両者とも見開きにあるんですけど、これが原寸大なんです、知らなかった。こんな小さいんですね。一方、「ゲルニカ」の、この人の、何倍あるかぐらい大きいとか、少し美術書に近いものがあるって、ただ、私がこれを見ると、教科書を見て楽しむのと、先生たちが教えるのってどうなのかなっていうのは少し思います。見て楽しいし、ずっと見てられるし、先生たち、これを、どうやって教えるのかと、少し思いました。美術の、教科書というのは、どうしてもこういうふうになってしまうのかなという思いがしました。

○委員長 いえいえ、ありがとうございます。

委員、ちなみに、美術の時間の中では教科書って大体パターンというか、どんな使い方になるんですかね。

○委員 写真なんていうのは、今、どの教科書でも視覚的なものが、たくさん捉えられると思うんですけど、美術の教科書も以前はもうちょっと図番、図柄をたくさん入れないといけないということで、たくさんはあるんだけど、割に小さかったりしていたんです。やっぱり美術の時間で一番大事なのは、感性なので、大きなもの、できれば本物に近いもの、インパクトのあるものを教科書の中に入れていただいたら、非常に子供たち、感性をくすぐるみたいなのところがあるので。実際にそのものを作るとか、作業をすることかいうことはもちろんあるんだけど、今、その美術の中で言われているのは、非常に鑑賞。いわゆる、これから社会に出て行った生活の中でも、そういう芸術や絵画、いろんなものに視点を置いて、その美しさを味わうようなことが大事だろうって言われているところについては、ものを作るだけじゃなくて、こういう本物を見て、そういう感性磨くっていうのは非常に大事なので、大変そういう部分については使いよい教科書であると。作るものについては、もう先生とか教えていたり、今、電子黒板があって、電子黒板で、コロナのこともあるから、事前に先生らが作業の方法を電子黒板や、パワーポイントを使ってしてやったりしています。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、美術のほう、この辺りでまとめたいと思います。まず、「最もふさわしいもの」が光村、日本文教出版の2者。そして、「よりふさわしいもの」が開隆堂出版ということでまとめさせていただきます。

きましたが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 そしたら、こちらで「美術」の答申案とさせていただきます。

それでは、本日、もう1教科の「保健体育」までさせていただきますと思いますので、準備お願いいたします。

保健体育

(教科書配付)

○委員長 それでは、事務局、説明をお願いします。

○事務局 失礼いたします。

「保健体育」につきましては、4つの発行者ございます。

初めに、東京書籍からでございます。

まず、69ページを御覧ください。コンテンツが用意されている箇所にはDマークがあり、コンテンツへのアクセスやURLが掲載されており、ICT化で簡単に使用できるという点や、また、16ページ、17ページを御覧いただきますと、学習におけるキーワードを示し、巻末にそれらの全ての解説があることで、生徒の自学自習につながるのではないかという意見がございました。東京書籍については以上でございます。

次に、大日本図書を御覧ください。

まず、例えば、45ページ開けていただきますと、各それぞれの章がそうなんですけど、提示してある図や挿絵が鮮やかで大変わかりやすいといった意見や、また、93ページの上の部分の部分を御覧いただきますと、話し合ってみようというコーナーがあり、ここでは、事故を予防するために、その思考を高めることができるというような意見が出ておりました。大日本図書については以上でございます。

次に、大修館書店を御覧ください。

まず、26ページ、27ページを開けていただきますと、章のまとめで単元テストや自主学習ができるような工夫がなされているという点や、また、1ページの左下にありますが、ウェブ保体情報館ではウェブサイトから参考になる情報を調べることができるような工夫がなされております。大修館書店については以上でございます。

最後に、学研教育みらいを御覧ください。

まず、83ページを御覧いただきますと、章末に自己評価を設けることで、反復的、また継続的な学習ができるという点や、34ページには考える、調べるで、単元の途中で生徒自身の生活について考え、意見交流ができるような工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。

「保健体育」4者につきましては以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、少しお時間取りますので、教科書のほうを御覧ください。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは、ここから御意見を伺いたいと思います。

それでは、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 それぞれの教科書の生活習慣の予防のページを全て見比べてみました。例えば、学研の生活習慣の予防ですと、86ページから始まってまして、最後のページが89ページです。東京書籍の場合は95ページ。いいなと思う、工夫されてるなと感じたのが、この東京書籍、それから大修館書店もそうなんですけど、大修館書店の場合は79ページにあるんですけど、それぞれの学習を学んだ一番最後の

学習のまとめが、先ほど申し上げた学研教育みらいの場合でしたら、あなたの生活を振り返って生活習慣病を予防するために続けたほうがよいと思う習慣はどんなものですかとか、それから、大日本図書でしたら、73ページに生活習慣予防をするために、これからできることをまとめましょうと。少し抽象的というか、学習のまとめという感じで表現されてます。一方、東京書籍のほうでしたら、実際イラストがありまして、女の子のイラストのところに食事に気を付けてるのは大人になってからでいいよってというようなコメントがあって、この子に対してどんなアドバイスをしたらいいかっていう形でまとめるようになってます。同じく、大修館書店のほうも、学習のまとめ79ページに、Aさんはお菓子や清涼飲料水が大好きで、日頃夜遅くまでゲームをすることが多く、朝食を取らずに登校することは少なくありませんと。こういったAさんに対してどんなアドバイスをするかということで、学んだことを実際に生活に生かしていく、友達にアドバイスする形で学習をまとめるようになってるのが、こちらが大修館書店、それから東京書籍というふうになっておりました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 同じような見方をしたんですが。感染、今一番いいと思う、感染症の予防のところを4者見させていただいたんですけども、一番よかったと思ったのが大修館書店、2から始まって、ほかのところは、いきなり感染症とはというところから始まってくる。東京書籍に至っては、そのような書き方なんですけど、ページ数と内容もちょっと薄いということがありました。大修館書店のほうは、いろいろと社会でもというようなところで、こんなところでもこういうことがありますよって書いてあって、ウイルスの写真のやつが載ってました。詳しく載ってました。他も載ってるんですけども。後、138ページのところでマスクについてですね、今もマスクが良いのですが、実はウイルスのほう小さくってマスクを通るんだよってというようなことが書いている。より時下というか、現実的なところを書いてあるなというふうに思います。鼻のかみ方みたいのところ、せきの仕方のところも書いてあるので、一つ感染症だけ取り上げましたけども、大修館図書のほうがいいかなと思いました。

ただ、大日本図書さんのほうは、レイアウトがすごく見やすく、読むには大日本図書さんのほうがよかったと思います。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 喫煙や飲酒、薬物乱用防止のところのページを、少し比較して見させていただいたんですが、東京書籍は知識としての薬物等の防止のことがメインで書かれていた中で、残りの3者は、実際にこういう形で誘われるから注意してくださいねみたいなのが、イラスト込みで細かく、誘い文句とか載せていただいているので、実際ロールプレイ等しながら教える際には使いやすいかなと感じました。

後、もう1点ありまして、スポーツ関係のところ、オリンピック・パラリンピックの取扱いのページのところで、大修館書店と東京書籍ですね、この2者はちょうどオリンピック・パラリンピックを均等割合ぐらいで取り扱ってるんですけど、後の2者、学研、大日本図書については、オリンピック寄りパラリンピックは触れる程度という形で、そこの分量の差も少し気になることがあります。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 これも調査員の報告から、デジタル教材が東京書籍の場合、充実してるということで、実は1ページに、Dマークという一覧がございまして、これを見ますと、やはり今日的な課題も書かれてますし、大阪府の資料で行きますと、他教科との関連で、30か所ということで断然に多いんです。やはり保健体育、実際、こういうデジタル教材、動画を見るっていうことは、子供たちの理解を助けるのに重要ななと思いました。

これは細かい話なんですけども、実は、今回、手洗いというのが重視されてる中で、東京書籍は165ページにこういうふうに、手洗いの方法が、全部出てるんですけども、他者さん、当然簡単にイラストで扱ったり等してるので、東京書籍はすごく丁寧にされているなというふうに思います。

もう一個、大修館図書も、調査報告の特記事項に、具体的で丁寧な説明で簡潔にまとめられていて、自学自習にも適した教科書であるというふうに書かれてましたので、子供たちが読んで、さらに授業で深めていくというのは、すごくいいかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 心身発達と心の健康とか、心のケアのことで、少し私、今子供たちの親なので、そちらの目線で見させてもらったんですけども、一応、比較させていただいたら、すごく単純なんですけども、大日本図書さんのほうが、さっき委員のおっしゃったところでありましたようにすごく見やすく、わかりやすく、ほかのところ見たら、結構マイナーな画像でしか載ってないなという、マイナスな画像しか載ってないなっていうのを感じたんですけど、大日本図書は、こうしたらいいよ、ああしたらいいよっていうアドバイスのなものも入ってるんで、いいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 4者のがん教育のところを見ていたんですけど、どの教科書も生活習慣病からスタートして、その後、がんという死亡率の高い病気を取り上げているんだけど、ページ数を一番割いているのが大修館図書。身近な病気であるっていうことを、大修館書店は言っていて、身近な病気であるっていうことは、2人に1人がかかるけれども、身近だから、がん付き合って早期発見、早期治療をすれば付き合える病気ですよ。そして、大修館書店はがん体験者の言葉がコラムに入っていて、そういうところの工夫と、80ページの、がんっていろんな内蔵機器、部位に細胞が、要はがん細胞になるところから始まるので、乳がん、肝臓がんって部位の写真が入っていたり、丁寧に捉えているなというのがありますね。

学研教育みらいは、生活習慣病から始まっていて、がんの説明をして、がんの予防を書いてあって、ここもそれなりに丁寧には書いているなという感じですね。後は、後2者は同じような感じかな。

非常に、大修館書店についてはわかりやすく説明されているので、がんってなかなか取り上げにくくて、教えにくいんですけど、この教科書の中で見て教えられる。教えやすいのは大修館書店かなというふうに思いました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ほか特によろしいでしょうか。

それでは、今いただいた意見をまとめますと、「最もふさわしい」が東京書籍、それと大修館書店。

「よりふさわしい」が大日本図書。そして「ふさわしい」が学研教育みらいというふうにまとめさせていただきますましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 それでは、今のとおり、答申案とさせていただきます。

ありがとうございました。本日もたくさんの御意見頂けましたので、スムーズに進行ができました。

本日予定しておりました教科を終えましたので、本日はここで終了とさせていただきます。

それでは、副会長より御挨拶をお願いします。

○副委員長 本日も長時間、調査員の報告を基に、選定資料の作成御苦労さまでした。

教科書の内容が、それぞれ教科書会社も工夫を重ねて、今使っている教科書とは違うような特徴も出たので、守口の子供にとって、または指導される先生方にとって、使いよい教科書となるように答申を作成できたのかなと思ってますが、次回まだ教科が残ってるんですけど、いろんな話題の中に、やはりICT機器ですとかそういうことを見据えた、教科書は、教科書の無償給与法の中で4年間継続的に使うということが決まっているのですが、毎年、年度採択ということがありますが、ただ毎年、採択してられない。調査を4年間見通したいという形で決めていくということが非常に大事なかなと思っています。

後、残りの種目がありますけれども、次回もいろんな意見をいただきながら、審議がうまくいければと思っています。

今日は御苦労さまでした。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、次回は、16日(木)の午後2時となります。場所もこの場所です。

残すは、「技術・家庭」、そして「外国語」、そして「道徳」の4つの教科になりますので、また次回もよろしく願いいたします。

事務局、何かありますか。

○事務局 いえ。特に大丈夫です。

○委員長 そしたら、これで終わらせていただきます。

ありがとうございました。

第4回守口市義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日 時 令和2年7月16日(木)午後2時00分

場 所 守口市役所 教育委員会会議室

出席者	委員長	森田 大輔	守口市教育委員会事務局	教育監
	副委員長	大野 友己	守口市立庭窪中学校	校長
	委員	棹本 達也	守口市教育委員会事務局	教育部 学校教育課長
	委員	中村 文俊	守口市教育センター	長
	委員	光宮 猛	守口市立大久保中学校	教頭
	委員	清水 智織		保護者

○事務局 定刻前ですが、おそろいですので、令和2年度第4回目の守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催させていただきます。

では、ここからは委員長に進行をお譲りいたします。よろしくお願いいたします。

○委員長 改めましてこんにちは。

本日も大変御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。なお、〇〇委員については本日欠席するとの報告受けております。

それでは、本日は、いよいよ、この選定作業としては最後の日になります。残すところ「技術」「家庭」「英語」「道徳」の4つの教科について、御意見賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

技術・家庭（技術分野）

それでは、始めさせていただきます。

それではまず、「技術」からです。

事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。

それでは、「技術・家庭（技術分野）」につきましても、3つの発行者がございます。

初めに、東京書籍からでございます。

まず、79ページを御覧ください。下に技術の匠等のコーナーが設定されており、先人の知恵を学べるような工夫がなされているという点や、それぞれのページの下、例えば、97ページ等御覧いただきますと、生活に生かそうとか、まとめてみようなど、生徒が学習内容を振り返るような工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、教育図書を御覧ください。

まず、44ページから49ページにありますように、例えば、製図の読み取り方など、それぞれの項目を詳しく、わかりやすく表現をされているというような意見や、別冊の技術ハンドブックというものがございまして、生徒の自学自習にも十分活用しやすい形になっている、そのような意見が出ておりました。教育図書については以上でございます。

最後に、開隆堂出版を御覧ください。

こちら、71ページを御覧いただきますと、ここでは切断の説明について、その姿勢や動作が、よりわかりやすくなるように写真や図を丁寧に活用しながら工夫がなされているという点や、ほぼ全てのページの一番下に豆知識のコーナーがあり、こちら、生徒にとって自学自習に活用できる工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。

「技術分野」について以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここから教科書を見ていただく時間取りますので、よろしく願いいたします。

（教科書閲覧）

○委員長 それでは、時間となりましたので、ここからは御意見を頂きたいと思えます。本日も、前回までと同様、教科書を「最もふさわしい」「よりふさわしい」「ふさわしい」の3段階で分けて、答申案として提出したいと思えますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速御意見いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 失礼します。「図工」から、中学校になれば「技術」になるにつれて、子供たち今の学習もさらに深まってくるのかなと思えます。本市の学びの過程を重視した教科書ということで、主体的、対話的で深い学びに向けて、どのように先生方が教えるのかと、最初の出会いについて考えました。選定資料のガイダンスでは、技術の13ページです。教育図書と東京書籍は12ページで、約4%。開隆堂出版は10ページ、約3%を取っています。東京書籍は6ページです。ガイダンスの一番最初には、例

えば、カッターやスマホなど、大変身近なものから入っており、子供たちの興味、関心をそそるかなと思います。

それと、教育図書は、裏表紙に、日常でどれだけ技術が生かされているのかということ、ここで子供たちの様々な意見が期待できるかなと思っていて、この2者が最初の入りとして、子供たちが興味、関心を持てるのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 3者共に学習の目標を明確にしていて、振り返りができるように工夫をされています。子供たちが主体的に学ぶ仕掛けができています。

後、それぞれの工夫があります。東京書籍でしたら、巻末のほうにDマークコンテンツがあり、本市のICT活用の図れる一覧のページがあり、工夫されてるかなと思います。

教育図書は、先ほど、事務局のほうからもあったかなと思いますが、別冊のハンドブックによって、家庭学習でも役立つ工夫がされてるかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 のこぎりの使い方のところで、3者見比べて確認したんですが、東京書籍の55ページ、開隆堂出版の71ページ、教育図書の29ページで、それぞれ、きっちり丁寧にまとめられています。東京書籍では切断で失敗しないような工夫のところのヒントが載っていて、作業が苦手な子には、とてもいいかなと思いました。

開隆堂出版の71ページですが、失敗しても修正する方法を載せているので、対応できるかなと思います。

教育図書では、全ての作業を一覧で確認できて、見通しを持った進め方ができる工夫がされています。三者三様ですが、工夫がきっちりされているかなと思いました。

もう1点が、ネット関係の内容ですが、教育図書だけ、203ページにネット依存について取り上げられています。情報の授業の中で進めるんですが、今の子供たちは先生以上に情報を知っているもの、このネット依存は増えてきている状況があるので、教育図書いいところに触れてるかなと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

委員、実際に子供が使うことを踏まえ、保護者としての視点で何かありますか？

○委員 私たちの時代の技術・家庭と全然違うかなと思いました。ネットとかがあり、少し興味があったのは、教育図書の二足歩行のロボットで、支援にも使うという紹介していました。ロボットコンテンツのことも書いてありすごく面白いかなと思いました。

○委員 子供が支援に役立つロボットを作りたいようなので、こういうのも面白いかなと思っていました。

後、東京書籍の50ページがすごく見やすいです。問題解決というところや、下にもメジャーが載っているので、子供たちにとって一番見やすいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員 府の選定資料で見ると、少し差異があるのはプログラミングについて取り上げているページ数と実習例。多いのは東京書籍です。例えば、情報のところを見てみると、東京書籍は、ここに防災が入っていたり、いろんなシステムの実習例が載っている。だから、プログラミングの内容を取り上げつつ、今後、防災に関わるものとか、熱中症のいろんなシステムに発展できるような実習例を取り上げているんだろうと思う。他の教育図書なんかも、チャットとかプログラミングについて書いてある。開隆堂出版はアプリについて書いてある。バランスで言うと、東京書籍の情報の部分はいいんじゃないかなと思う。

エネルギーのところを見てみると、3者それぞれ取り上げ方が特徴的である。東京書籍は、携帯型扇風機、冷蔵庫開けっ放し報知器、LEDライト、情報装置、ロボット。教育書籍のほうは、カンタンライト、ぱくぱくカム、コロコロしたライトを付けるようなスタンドなど工芸的なものを取り上げられている。開隆堂出版は介助ロボット、LED、お手軽クリーナーなど生活に密着したもの。

後は、生物育成のところ、開隆堂出版のどじょうの養殖は少し変わっている。

木工は、開隆堂出版が材料を重視している。後は、身近なものや具体的なものが出ているところが特徴的でした。

バランスが取れているのは東京書籍かなと感じている。QRコードがついているのは開隆堂出版で、右下にたくさん付いてある。作業工程のところ、QRのものがたくさん付いてるので、作業工程が出てきたら、面白いと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

お願いします。

○委員 先ほど、委員からも、我々のときの教科書と全然違うという意見がありました。他教科との関連というのが、どの教科書にも書いてありました。例えば、生活、理科や社会についてはどの教科書にも書かれていました。調査員の報告にもあるように、東京書籍が、結構詳しく書かれていますので、技術だけでなく、いろんな教科と絡めて勉強していく動機になると思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、頂いた御意見からまとめさせていただくと、まず、「最もふさわしいものは東京書籍、教育図書。そして「よりふさわしいもの」として開隆堂出版とさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございました。

それでは、今のように答申案とさせていただきます。

続いて「家庭科」です。教科書の準備をお願いいたします。

技術・家庭（家庭分野）

(教科書配付)

○委員長 ありがとうございます。

それでは、続いて「家庭科」です。事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。

「家庭分野」につきましても、合計3者でございます。

初めに、東京書籍からです。

まず、109ページを御覧ください。他のページにもございますが、下の部分に活動というコーナーがあり、グループ活動などを通して、生徒同士が学習を深めることができる工夫がなされております。また、58ページを御覧ください。ここでは、調理の基本について、手順が写真と共に丁寧に説明されており、生徒が、学習したことを生活の中で家庭で活用できるような工夫がなされている、そのような意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、教育図書を御覧ください。

まず、17ページから19ページにありますように、やってみよう、話し合ってみよう、考えてみようなど、実践的、体験的な活動を通して学習できるワークが多数掲載されていて、主体的な学び、対話的な学び、また、深い学びに取り組めるような配慮がなされているという点や、同じく、24ページ等を御覧いただきますと、各学習項目に学びを生かすためのページがあるので、今後学習以降、実践がしやすいような工夫がなされているというような意見も出ておりました。教育図書については以上です。

後、最後に、開隆堂出版についてです。

初めに、178ページを御覧ください。開隆堂出版も、話し合ってみようというコーナーで、学習内容から生徒が考え、グループ活動や言語活動を通して理解を深められるような工夫がなされているという点や、25ページ等を御覧いただきますと、振り返りの後の、生活に生かそうでは、自分自身の生活を見詰めて、実践的に取り組むことができるような工夫もなされている、そのような意見が出ておりました。

「家庭分野」3者については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここから教科書見ていただく時間といたします。よろしく申し上げます。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは御意見を頂きたいと思えます。

いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 災害への対策というところで、3者の教科書を見比べてみました。

東京書籍の場合は174ページ、教育図書が228ページ、開隆堂出版が218ページ、それぞれ災害への備えのことが書かれています。今現在も、こういった水害であったり、近い年でも台風や地震が起こっています。この関西では阪神・淡路大震災がありました。どの教科書も写真やいろんな資料を交えて書かれています。阪神・淡路大震災を、実際に文章で取り扱ってるのが、開隆堂出版です。開隆堂出版の219ページの上のほうの、住まいの地震対策というところでは、実際に阪神・淡路大震災で亡くなった方のことが記述されており、また、右の円グラフで、亡くなった方の死因が示されています。

また、教育図書では、文章記述はございませんが、228ページには、実際に、阪神・淡路大震災での被害の様子が写真で掲載されています。どの教科書も工夫されていると思えますが、関西で起こった災害の被害の状況が掲載されてる2者について取りあげて伝えさせていただきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 家庭科の導入の「家庭分野でどういうことを学んでいくのか」というところで、3者とも自

立・共生っていうテーマで書いているんですが、東京書籍が6、7ページ、教育図書が8、9ページ、開隆堂出版が4、5ページのところで、文章やイラストがあり、まとまって書かれているのは開隆堂出版で、一番見やすいと感じました。

後1点で、家族との関係というところで、多くが自分の家庭内と地域との構成というテーマで取り扱ってるんですが、開隆堂出版のみ、24ページのところで、これからの新しい家族の在り方として、養子縁組や、児童養護施設など里親のことを取り扱っており、他者とは少し違うと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員 今、委員から導入の話がありましたが、開隆堂出版と教育図書は、最初、家族、家庭生活という単元から始まっています。東京書籍は私たちの食生活という単元から始まっています。守口市は学校、家庭、地域との連携をととても大事にしている中で、言語活動の充実という観点から見れば、家族、家庭生活のほうが、食生活よりも深まるんじゃないかなと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 調理の内容を見ていたのですが、3者を比べると、アレルギーのことについて、開隆堂出版だけが、調味料のところにアレルギーだったら黄色いマークをしています。また、調理の衛生と安全では、食中毒の予防三原則というのが書かれており、とてもしっかりしてるなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 私も委員と同じで、子供たちがとても楽しみにしてる調理実習を見ていました。開隆堂出版は、調理時間が何分ぐらいかを示してあります。見やすさでは教育図書が調理でいうと魚さばいているところとかが、写真の角度で見やすいなと思います。開隆堂出版はQRがついているので、このQRを見たら、写真を補填するような画像などが出てくるんだろうなと。このQRを使って調理実習の補填になると思っています。

東京書籍は調理実習のところに実習例がたくさんありますが、料理本みたいになっています。基本の焼くとか、煮るとか、蒸すとかがあればいいので、開隆堂出版や教育図書のほうが調理のところでは見やすいなと思ってます。

もう一つ、不思議なのは、開隆堂出版の一番上の右端にいろんな絵が載っています。最初の、家庭のところは子供の顔がずっと書いてあるんですよ。

教科書の扱い方には載っていないんです。これ、面白い人ですが、何に使うのか不思議です。

○委員長 他に、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

御意見ありがとうございました。

それでは、今頂いた御意見をまとめますと、「最もふさわしい」2者が教育図書と開隆堂出版。続いて「よりふさわしいもの」として東京書籍というまとめ方でよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございます。
続いて「英語」です。事務局、お願いします。

英語

(教科書配付)

○委員長 それでは、「英語」について、事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 「英語」につきましては、合計6者ございます。

初めに、東京書籍からでございます。

まず、3年生の84、85、86ページを御覧ください。マッピングを用いてアイデアを出して、主体的に考えが出せるような題材や場面設定がされており、生徒が意欲的に表現活動ができるような工夫がなされている点や、次に、1年生の59ページを御覧いただきますと、各単元の文法事項をキーセンテンスとして取り上げ、プラクティスで定着を図るような構成を組んでいる、そのような意見も出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、開隆堂出版を御覧ください。

それぞれの学年なのですが、例えば、1年生を見ていただきますと、巻末資料としてアクティビティーで使える絵かるたなどのアクションカードのページがあり、生徒が言語活動がよりしやすいような工夫がなされている点や、同じく、1年生の7ページから15ページを御覧いただきますと、Get Readyで、小学校の学習内容を生かす活動を取り入れ、小中英語の連続性を持たせるような構成がされているという点が上げられておりました。開隆堂出版については以上です。

次に、三省堂を御覧ください。

初めに、3年生の89ページ等を御覧いただきますと、Speak & Writeでは、教科書本文や文法事項の自己表現ができるような工夫がなされている点や、次に、1年生の8から13ページを御覧いただきますと、こちら三省堂についても、スターターなどで小学校の英語表現の復習ができるような工夫がなされているということも上げられておりました。三省堂については以上です。

次に、教育出版を御覧ください。

まず、1年生の12ページから19ページを御覧いただきますと、アクティビティーの内容を段階的に設定し、基礎的な知識、技能の習得を目指すと共に、それを活用し、思考力、判断力、表現力等を育成するような構成になっているという点や、次に、2年生の53ページを御覧いただきますと、グラマーでは、各単元で学習した文法事項を整理し、基本的な知識を定着させるような配慮がなされている、そのような意見が出ておりました。教育出版は以上です。

次に、光村図書を御覧ください。

まず、1年生の102ページを御覧いただきますと、Your Coachというコラムで、学習者が抱くであろう疑問に答える形で、学習者が主体的に学習に取り組むためのヒントが提示されるような工夫や、同じく128ページを御覧いただくと、アクティブグラマーのコーナーでは、単元で学習した文法事項のまとめが掲載されており、学習の振り返りができるよう配慮がなされている、そのような意見が出ておりました。光村図書については以上でございます。

最後に、啓林館を御覧ください。

まず、1年生の53ページを御覧いただきますと、ライティングのスマールステップが組まれており、アイデアや自己表現がマッピングや例文などを使って、順を追ってできるような配慮がなされているという点や、次に、2年生の40ページを御覧いただきますと、Express Yourselfでは、ユニットで学習した内容について、自分なりの考えを整理することで思考力、判断力、表現力等を育成

するような構成がなされている、そのような意見が出ておりました。

「英語」6者については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ここから教科書を見ていただく時間といたします。

(教科書閲覧)

○委員長 ここからは御意見を頂きたいと思います。

いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 単語というところに注目して全者見比べてみました。

1点目が三省堂と東京書籍で、この2者が全ての単語にQRコードによる音声ガイドがついていて、実際に発音を聞いて学べるようになってるので、耳を鍛えるという点でとてもいいと思いました。後、巻末の索引のところなのですが、量が多いと感じます。単語の索引のところは、辞書の会社のイメージの強い三省堂が、やはり1個群を抜いていると思います。難しいところに例文等もきっちり入れた形で、辞書と同じような構造で作られています。他の教科書は辞書と並用しないといけなんですけど、三省堂だけは教科書だけ一定クリアできるような構造になっています。

付録というのが三省堂と東京書籍の2者にあります。この2者が、三省堂の付録の13、14ページ、東京書籍の152ページ辺りです。分類別の単語一覧というのがあるので、日常生活で使いたいときに、そのテーマから索引ができるような工夫がなされているので、これも自学自習の際、自分で話す、文章を考える際に役立つと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 選定資料で客観的な数値で見比べてみました。

選定資料英語の21ページのところを見ているんですが、まず、下の表の4技能、5領域を扱ってる箇所数を見たところ、ページ数が違うので、箇所数の多い、少ないで判断できませんが、東京書籍と三省堂が1番目、2番目に多いかと思います。その中の5領域のバランスを見たときに、余り偏りなく、バランスが取れているかを見ると、10数か所というところは少ないかなと思ったので、そうでない数字を見ていくと、東京書籍などは、全て20以上、三省堂、啓林館もそうになっています。他者は若干少ない箇所があるかなというふうに見ました。

次のページを見たときに、次は語彙数のところを見ているんですが、委員からあったように、三省堂が圧倒的に語彙数では勝っています。2,559です。それから、一番下の自分の考えを表現する活動を取り扱ってるページについて、本市は学力向上を目指している面で、やはり子供たちが学んだことを頭の中にインプットするだけではなくて、自分が学んだことをアウトプットする、表現する活動が大事であることから、そのような表現する活動をするところでは、開隆堂出版、三省堂、光村図書が多いことを確認しました。

全体的に見ると、三省堂が、客観的な数字においても、工夫されてる箇所が多いのがわかります。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 1つ目の学びの過程を生かしたということで、主体的、対話的で深い学びという観点で考え

ました。英語は何のために学ぶのかということについて、やはり世界とのつながりだと思います。各者の最初の表紙裏を見たところ、三省堂は「言葉を使うことは思いを伝えること」、東京書籍は「もっと英語を使おう」、啓林館は「ブルースカイワールドマップ」において、世界とのつながりをとても意識された導入をされてるんだなというふうに思いました。それに絡めて、やはり題材が大切です。当然、話を聞くとか、学ぶことも大事なんですけども、その題材について調査事項を見たところ、三省堂は戦争と平和、キング牧師を初め、人権の学習を深める構成になっています。3年生の35ページに広島の子の原爆の子の像についてかなりのボリュームで取り扱われています。本市の子供も6年生で広島に行くことが多く、三省堂は、とてもいい文章を使っていると感じました。啓林館も3年生の33ページに、同じように原爆について考える内容があり、多くのページ数で取り扱われています。英語を通して物事を考える教材が、この三省堂も啓林館も多いと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 東京書籍は先ほどの英語の4技能、5領域のところで見やすいと思う。教材で使われるストーリーがあって、アクティビティーが書いてある。大体ユニットごとにアクティビティーがある。楽しそうな感じで編集されてると思う。東京書籍については、挿絵などが効果的に使われているような感じます。

先ほど、委員が言われたように、4技能、5領域のところを見ていて、光村図書は書くことがすごく多い。特に、1年生。教科書は1、2、3って分かれているが、大体2年、3年の縦つながりで指導要領が書かれている。6年生の英語でも単語を書くことが出てきているので、そこまで1年生で書くことは必要ないような気がしている。どちらかという、中学生では、さらにやりとりが必要なのかなと思う。東京書籍は、話すことが非常に多い。三省堂は40近いバランスの取れた形になってる。書くことについては、学年が進むにつれて、若干減っているが、その分、話すことや、発表が増えている。東京書籍や三省堂も増えている。発達段階に応じて、英語の技能を考えたときに、バランスよく編集されているのが東京書籍や三省堂と感ずる。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 啓林館の3年生の裏表紙なのですが、日本の文化について英語で書かれています。守口の子どもたちが海外で伝えるときに、すごい参考になる文例かなと思いました。他者さんは、きっと中には入ってると思うんですが、こうやって、外で目立たせてるのがいいと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

それでは、今頂いた意見をまとめますと、「最もふさわしい」のが東京書籍、三省堂の2者。続いて、「よりふさわしい」のが啓林館。「ふさわしい」のが開隆堂出版、教育出版、光村図書とまとめさせていただきましたが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 今申し上げましたとおりの答申案とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、いよいよ最後の「道徳」に移らせていただきます。

道徳

(教科書配付)

○委員長 ありがとうございます。

それでは、「道徳」に移らせていただきます。

事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 失礼いたします。

「道徳」につきましては、合計7者でございます。

初めに、東京書籍でございます。

まず、1年生の38ページを御覧ください。役割分担に、こうした演技や、体験的な学習を主体としたグループエンカウンターページが設定されており、読み物教材の1番目を演じることで、生徒同士が共同して、そのテーマについてさらに考えを深め、広げることができるような構成がなされている点や、また、1年生20ページ等になりますが、プラスという教材の内容を補足し、学習を深めるための記載も工夫されているという意見が出ておりました。東京書籍については以上でございます。

次に、教育出版を御覧ください。

まず、1年生の46ページを御覧いただきますと、道徳的行為に対する体験的な学習を取り入れた教材も配置されており、こちらも演技、また体験を想起し、話し合うことで道徳的と価値を日常生活や習慣に結び付けられるような工夫がなされているという点や、同じく、1年生53ページを御覧いただきますと、各教材の末尾に学びの道しるべで、教材の登場人物への自我関与を促し、様々な角度から考えたり、話し合ったりできるような工夫がなされているということも上げられておりました。教育出版については以上でございます。

次に、光村図書を御覧ください。

例えば、1年生の50ページ等を開けていただきますと、全学年を通して自分に引き付けて考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなどの発問が設定されているという点や、同じく、1年生158ページを見ていただきますと、各学年の最後の教材として、道徳の学びを振り返ろうが設定されており、1年間の学びを振り返り、生徒が自分の中の変容や、これからの生き方を考えられるような工夫がなされているという点が上げられておりました。光村図書については以上です。

次に、日本文教出版を御覧ください。

まず、1年生26ページを御覧いただきますと、感動、共感、思考を喚起する教材が多く配置され、生徒に新たな発見をもたらす、誇りある生き方を考えたい教材が選定されていることや、各学年別冊の道徳ノートがございますが、こちらを併用することによって、言語活動が充実し、多面的、多角的に考え、議論がしやすくなっているという意見が出ておりました。日本文教出版については以上でございます。

次に、学研教育みらいを御覧ください。

こちら、各学年、例えば、1年生37ページ等を開けていただきますと、教材末尾の深めようでは、考えを深める4つのステップに沿った学びが具体的に提案されており、生徒の学びがスムーズになるような工夫がなされている点や、それぞれ学年の教科書のサイズですが、A B判サイズで、視覚的にもゆったりとした紙面構成になっているというような意見も出ておりました。学研教育みらいについては以上でございます。

次に、廣済堂あかつきについて御覧ください。

まず、2年生の42ページを御覧いただきますと、中学生の発達段階に応じた教材が選定されており、先人や様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手を取り上げた教材を通して、自らの関わりと重ね合

わせながら深く考えることができるよう配置がなされている点や、同じく、2年生47ページでは、生徒が主体的、対話的に学習に取り組むことができるよう、教材の末尾に考える、話し合うが設けられており、明確な課題を持って学習できるよう工夫がなされております。廣濟堂あかつきについては以上でございます。

最後に、日本教科書を御覧ください。

まず、1年生の130ページを御覧いただきますと、多面的、多角的に捉える教材として、図のみで構成されている教材が選定されており、深く考え議論することで、生徒の主体的活動を中心に据えた教材を選定しているという点や、次に、3年生の100ページ等を御覧いただきますと、中学校3年間の発達の段階を考慮し、生徒の日常生活における身近な話題の教材が多く配置されるなど工夫がなされているという点等が上げられておりました。

「道徳」合計7社については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

そしたら、ここから教科書を見ていただく時間を取らせていただきます。お願いします。

(教科書閲覧)

○委員長 時間となりましたので、ここからは御意見を頂きたいと思います。

お願いいたします。

○委員 失礼します。

別冊がついているのが廣濟堂あかつきと日文です。調査報告書を見ますと、廣濟堂あかつきは補充、日文はノート対応ということで、創意工夫のところに差異が記載されていました。本市では、現場の先生方がワークシート等で対応されてきたということがあると調査報告書からは見てとれました。

それともう1点、いじめの記載ですが、特に重点的に取り組まれているのは東京書籍と光村図書と学研教育みらいです。文章を読むだけでなく、深められるように考えさせていると思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

今の日本文教出版と廣濟堂あかつきの別冊は、今使っておられるので、別冊があったほうがよいだろうという御意見ですか。

○委員 逆で、重要ではないということです。

○委員長 お願いします。

○委員 実際、授業の進め方をイメージした際に、各教科書ごとに全体の構成がそれぞれ特徴がありまして、東京書籍、光村図書、日本文教出版は、各話の一番初めに、そのテーマ的な文言が明示されています。残りの4者については、この明示がなく、いきなり文章から始まるのですが、道徳という教科の特性上、いろんな幅広い意見を求めるには、テーマを絞ってしまうと、一部の子が、それを見て答えを予想して書いてしまう恐れがあるので、文章から始まっている、教育出版、日本教科書、廣濟堂あかつき、学研の構成のほうが幅広い意見が出てくるかなと感じました。

後、もう1点で、より身近なテーマというところで見たとときに、教育出版が、身近な地域の題材をよく取り扱っています。伝統文化も、各者、東北とか島根とか、遠くのものがあるのですが、教育出版は近畿地方のものも取り扱っているのです、身近に感じるができるかなと感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

他に、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 今、守口市で使っている東京書籍と、今回の新しい東書の中身を見比べると、大体1つの学

年の教科書ごとに3つか、4つ、新しく入れ替わっているところがあります。例えば、1年生には載っていないですが、リオオリンピックのリレーの教材を取り扱っていたのがなくなった。それから、3年生の一番後ろのほうなのですが、今回はミスターヌードル。152。この152の自分に関わることは内容項目でいくとA。自分に関わることだが、心理の探求、Cのところの捉えとして使われてたが、今回Aになっている。同じ1年生の植松努さんの、『「どうせ無理」という言葉に負けない』あるが、今回はAになってる。そういう内容項目を少し変えてある。この安藤百福さんについては、身近で非常に興味のわく教材に入れ替えられている。前回の教科書は、「湖の伝説」という、すごく難しいやつだったので、こういう教材の入替えをやって、わかりやすくなってる。採択してた教科書だけ見比べたので、ほかの教科書も多分そういうことをやってると思う。東書のそれぞれの読み物教材のところに、タイトル以外に、内容項目に関わるようなタイトルが付いている。例えば、さっきの安藤百福さんであれば、新しいものを生み出すにはっていうとこだが、本来であれば、読み物教材は日本から世界へ、そして宇宙へ、インスタントラーメンの誕生だけでいいんですね。だから、内容項目の内容をここで出しちゃうと少しやりにくいなと感じる編集なんです。中身については、入れ替えた教材はよくなったと思います。

学研教育みらいは悪くないが、スポーツを扱っている教材が他と比べて多いように思います。少し気になったのは、学研教育みらいの1年生の116ページ。これは公平、公正、正義とかいうところの内容項目に当たると思うが、これは公平なのかと疑問である。義足の選手についてはいろいろあって、レームさんの話が出ているが、難しいのではないかと。公平、公正というかは総合の中身という気はする。1年生のところを見ても、例えば、スポーツを扱っているのは、オリンピック、嘉納治五郎さん、イチロー選手、グラブの職人さん、ジャッジも出ている。146ページにはソフトボールの人が出ている。もう少し、深みのある教材があればなという気がします。

光村図書は、非常に深みのある教材があっていいなと思っていて、1年、2年、3年と進んでいくうちに、教材の深まり方のレベルが上がっていく。例えば、3年生の道徳で、いい教材だが、なかなか難しいと思うものもある。例えば、38ページの「小さな出来事」。これが道徳の教材かなとは思いますが、話は短い。倒れた老婆が、引いてる車に当たっていないのに倒れた。車夫がそれを助けて、派出所へ連れていくが、車夫は多分逮捕される。よく考えると、なかなか難しいなと思う。それから、63ページのソーシャル・ビュー。これは視覚、全盲の方との美術鑑賞というテーマだが、相互理解と寛容ということであるの全盲の人でも健常者と一緒に芸術作品を味わうことができるという内容。非常に授業としては、どういうふうに進めていくのかなというような感じがして、興味のある教材を取り扱っている。それから、同じく、86ページ、「ぼくの物語あなたの物語」。これは公正、公平、社会正義で、差別したらいけないという話である。どちらかというところ、光村図書は国語も作っているんで、そういう国語的な流れの教材が多いのかなと思う。同じ2年生の139ページ「恩讐の彼方に」。時代は昔である。これも読み物としては量が多い。量が多くて、ちょっと内容が暗いが、読んでいくと、なかなか深い読み物教材である。だから、学年を追うごとに光村の教材は、非常に深みのある教材がたくさんあるなと思いました。

先ほどの分冊について、廣済堂あかつきも、日本文教出版も、前の分冊とはちょっと形が変わっている。今、学校では道徳ノートを作っていて、ワークシートから道徳ノートに感想を書いていつでも見れるような形でやるという学校も出てきている。廣済堂あかつきの分冊には、調査員によると補充ということで書いてあるが、右下に教科書の読み物教材の番号がついていて、この番号のところに関連する補充だと書いてある。しかし、この補充もやろうと思ったら、おそらく50分の中には収まらないというものが出てくる。感想を書くようになっているので、補充としては使いにくいかなという気がします。時間的に。

日本文教出版は、道徳ノートの代わり。感想を書くところで、ワークシート的になっているので、これ

はまだ使えるかなと思います。

教育出版は、バランスのいい教材が掲載されていると思う。1年生の34ページに、下町ロケットのモデルになった植松努さんの話が載っている。この内容は、同じ植松さんを取り扱ってる東京書籍などと比べると書きぶりが違う。こちらのほうが非常にわかりやすく書いてるなと思いました。中学校の道徳、文科省が作っていた教材の中のいい教材については、いろんな教科書会社でも扱われている。そういう、いい教材が引き継がれているのが、教育出版の3年生のところで見ると、56ページ。ピューリッツァー賞など。教育出版の中にはまとまって、差別的な内容を取り扱った教材があります。3年生の76ページ。藤井聡太さんが扱われている。これいいなと僕は思ってる。若い人が、将棋という日本の伝統文化を捉えて、加藤一二三さんとの対局のことがあった。これはみんな関心があると思うと。新しい教材で使われている。3年生の付録的な教材が35教材あります。補充教材の5つのうち3つが偉人内容です。その中に、音楽は対話の始まり、165ページに守口にもなじみのある、バイオリニストの五嶋みどりさんが取り上げられている。守口の夜間学級が写っている。こういう教育出版の、教科書のスタイルもなかなか面白い。A4判で使いやすい。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 私も、内容項目が前出しされてるのかどうかというところで、今見ている中で、確かに、前出しされていない学研教育みらいであったり、教育出版のほうが、考える道徳という意味では議論が深まると感じました。

一方、選定資料の道徳の14ページを見ながら、内容項目のバランスも見ていたのですが、特色として、東京書籍は生命の尊さを扱う教材が、他の教科書会社と比べて極めて多いというのが特徴かなと思います。やっぱり自分の命を大事にするというようなことを学ぶ機会を多くするというのは大事かなと感じました。

もう一つ、教育出版は、本市の教育理念であります、郷土を誇りに思うという部分では、郷土の伝統や文化の尊重といったところで、突出して多く取り扱ってる点が際立ってるかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 今の補足になるのですが、光村図書の教材がより深まっていくということですが、例えば、3年生の19ページ、「二通の手紙」があります。廣済堂あかつき以外は全者取り扱っている、とてもいい作品なのですが、動物園の職員の方が幼い子を二人で、本当は保護者とわかってないってだめなのですが、入れてあげて、後で処分を受けるという内容です。保護者からは感謝の手紙をもらうという、そういう葛藤を、他者は考えを深めようでやるんですが、光村は、25ページに1ページを取って、しっかり考えさせようとしている。やはりこの辺が深いなと思います。

それと、先ほど五嶋みどりさんのお話が出ましたけれども、3年生96ページに、本市の夜間学級ではないですが、東京の夜間学級のお話が出ていまして、これを読むことで、守口市のお子さんが夜間学級の存在を知り、さつき学園や夜間学級に興味を持ってもらえる、いい教材だと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 親としたら、やはり子供を育てるに当たって、道德ってとても大事だと、思いました。いじめもあるし、命の尊さもあるし、すごくいいなと思いました。教育出版がいいと思いました。一番後ろの200ページから都道府県にゆかりのある人物と、その言葉というのがあります。みんな知ってるようで知らないなっていうのがたくさんあって、うちの子供も結構こういうの好きなので、こういうのを見て、教科書に対していいなと思ってもらったらと思います。私が読んでも面白かったのです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

それでは、今頂いた意見をまとめますと、まず、「最もふさわしい」2者は教育出版と光村図書。続いて、「よりふさわしい」が学研みらいと東京書籍。残り、日本文教出版と廣済堂あかつきと日本教科書が「ふさわしい」ということでまとめさせていただきます。よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○委員長 ありがとうございます。

御協力をいただきましたおかげで、全ての選定作業が終了いたしました。本当にありがとうございます。

事務局からは、何か連絡ありますか。

○事務局 最後に、これまでの全体を通じて、「最もふさわしいもの」を御確認いただけたらありがたいなというふうに思っております。

それでは、私のほうから「最もふさわしいもの」について確認をさせていただきたく思います。

まず、「国語」につきましては、三省堂と光村図書。

次に、「書写」については、教育出版と光村図書。

次に、「社会（地理）」については、帝国書院と日本文教出版。

次に、「社会（歴史）」については、日本文教出版と東京書籍。

次に、「社会（公民）」については、東京書籍と日本文教出版。

次に、「地図」については、2者、帝国書院、東京書籍。

次に、「数学」については、啓林館と数研出版。

次に、「理科」については、東京書籍と啓林館。

次に、「音楽」については（一般・器楽）共に2者、教育芸術社、教育出版。

次に、「美術」については、光村図書、日本文教出版。

次に、「保健体育」については、東京書籍、大修館書店。

次に、「技術家庭（技術分野）」については、教育図書と東京書籍。

次に、（家庭分野）については、教育図書と開隆堂出版。

次に、「英語」については、東京書籍と三省堂。

最後、「道德」については、光村図書と教育出版。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

今後のスケジュールをお願いします。

○事務局 今後は、最終的には、7月30日の教育委員会定例会において、教育委員の皆様にも御協議いただいた上で、守口市の教科書採択を行う予定といたしておりますので、どうぞお知りおきください。

○委員長 決まりましたら委員にも、決定した教科書について、学校に通知すると同時にお願いで

きますか。

○事務局 はい。お知らせいたします。

○委員長 それでは、最後に、副委員長より御挨拶をお願いいたします。

○副委員長 3日間にわたりまして、答申の審議、どうも御苦労さまでした。ありがとうございました。

先ほど、事務局からありましたように、この30日に教育委員の皆さんで、守口の子供たちにふさわしい教科書が採択されます。この3日間でのいろんな意見も参考にはされるかと思いますが、守口の子供たちにふさわしい教科書が採択をされるようお願いしたいなと思っております。

長時間、どうもありがとうございました。御苦労さまでした。

○委員長 それでは、以上で終わらせていただきます。

ありがとうございました。